

A colorful illustration of a park scene. In the foreground, a girl with orange hair and a boy with blue hair are sitting on a wooden swing, both holding and reading books. Between them is a small white sheep also holding a book. In the background, a squirrel is perched on a tree branch, also reading a book. The title '2007 子と"もゆめ基金" ガイド' is prominently displayed in the upper center, with '2007' in yellow 3D font, '子と"もゆめ基金"' in large yellow 3D font with a red oval background, and 'ガイド' in yellow 3D font. A registered trademark symbol (®) is visible to the right of the main title.

2007 子と"もゆめ基金" ガイド®

独立行政法人
国立青少年教育振興機構



目次

「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
平成19年度 応募・採択状況	4
平成13～18年度 応募・採択状況	6
平成18年度助成活動事例(子どもの体験活動)	7
平成18年度助成活動事例(子どもの読書活動)	27
平成18年度助成活動事例(教材開発・普及活動)	36
普及啓発事業の実例	38
「子どもゆめ基金」への寄附団体	40

「子どもゆめ基金」について

今日、社会全体のモラルの低下、地域社会の教育力の低下、メディア上の有害情報の氾濫など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、自分自身で考え創造する力、他人への思いやりの精神が身についていないと指摘されています。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが提言されております。

このような状況を踏まえて、「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、

同議員連盟が中心となって検討を進めてきたものを受け、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、未来を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取り組みや、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

活動例

- ①子どもを対象とする体験活動
 - ・自然観察、キャンプなどの自然体験活動
 - ・清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動 など
- ②子どもの体験活動を支援する活動
 - ・子どもの体験活動の指導者養成 など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

活動例

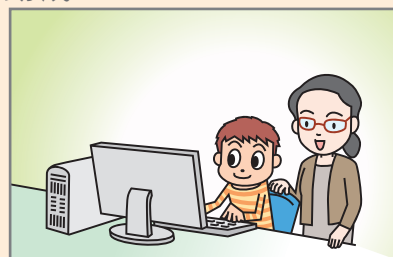
- ①子どもを対象とする読書活動
 - ・読書会活動、読み聞かせ会 など
- ②子どもの読書活動を支援する活動
 - ・子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

活動例

- ・子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



助成対象団体

民法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発（子どもゆめ基金ガイドの作成、子どもゆめ基金PRビデオの作成、普及啓発事業の実施 等）

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

審査方法

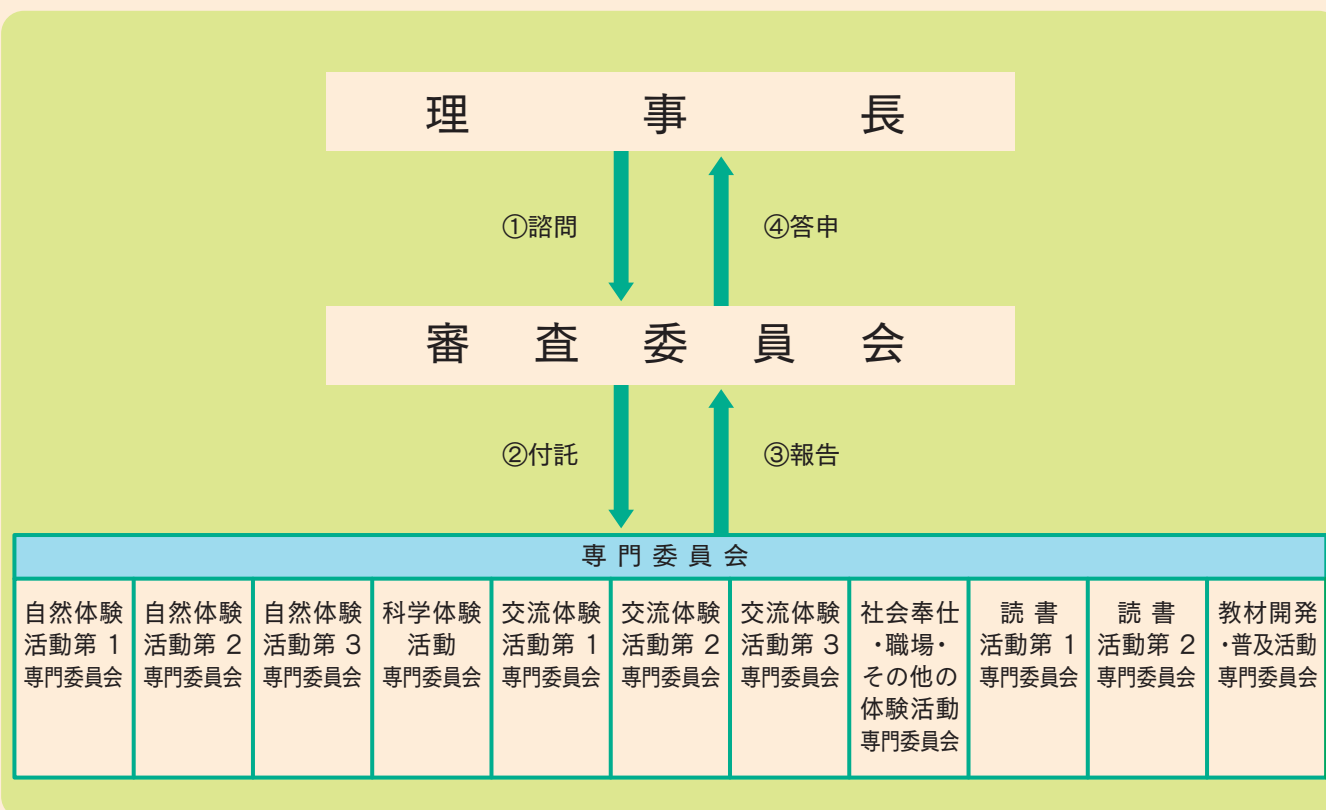
子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」

を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、機構理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から専門委員会へ調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定（選定）を行います。

審査委員会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成19年度 応募・採択状況

活動区分別応募・採択状況

(単位：千円)

活 動 区 分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,441	1,848	1,182,549
子どもの読書活動	523	464	210,771
教材開発・普及活動	112	30	244,544
合 計	3,076	2,342	1,637,864

子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位：千円)

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	146	111	61,989
青森県	15	13	6,516
岩手県	30	28	14,536
宮城県	25	18	9,559
秋田県	10	7	3,590
山形県	13	11	5,953
福島県	19	17	6,235
茨城県	32	24	12,636
栃木県	29	24	15,508
群馬県	16	12	7,353
埼玉県	87	56	29,376
千葉県	86	67	38,210
東京都	379	268	312,320
神奈川県	82	69	35,821
新潟県	36	28	15,425
富山県	18	13	8,251
石川県	29	18	11,546
福井県	33	19	19,786
山梨県	30	18	11,875
長野県	73	59	48,875
岐阜県	36	26	12,236
静岡県	66	54	35,108
愛知県	98	71	27,822
三重県	21	18	8,648

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	91	72	27,425
京都府	63	52	31,459
大阪府	238	193	91,250
兵庫県	90	69	37,764
奈良県	33	27	11,417
和歌山県	29	23	11,978
鳥取県	11	8	2,947
島根県	13	4	3,366
岡山県	35	24	12,913
広島県	25	21	14,962
山口県	13	11	3,732
徳島県	41	35	17,221
香川県	19	14	7,286
愛媛県	29	21	7,684
高知県	16	13	7,139
福岡県	80	59	35,409
佐賀県	8	5	1,490
長崎県	31	18	14,695
熊本県	58	44	33,925
大分県	23	17	9,345
宮崎県	17	14	8,448
鹿児島県	52	41	22,771
沖縄県	17	14	8,749
合 計	2,441	1,848	1,182,549

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。(以下、同じ)

子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	17	16	9,078
青森県	1	1	286
岩手県	5	5	3,216
宮城県	7	6	3,073
秋田県	11	10	2,954
山形県	4	4	1,260
福島県	7	6	7,206
茨城県	3	3	621
栃木県	13	10	4,769
群馬県	5	3	470
埼玉県	9	8	2,929
千葉県	17	16	4,452
東京都	56	48	50,655
神奈川県	17	14	4,206
新潟県	14	14	3,900
富山県	5	4	1,797
石川県	4	3	3,087
福井県	6	6	1,049
山梨県	14	14	2,441
長野県	17	15	6,764
岐阜県	7	5	904
静岡県	12	12	3,787
愛知県	11	8	2,913
三重県	7	4	1,042

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	16	16	5,429
京都府	12	12	3,102
大阪府	54	48	13,374
兵庫県	20	18	6,701
奈良県	3	3	519
和歌山県	3	3	885
鳥取県	2	2	2,360
島根県	9	8	3,062
岡山県	5	5	1,937
広島県	4	2	951
山口県	5	3	4,375
徳島県	9	8	1,500
香川県	8	8	4,643
愛媛県	2	2	655
高知県	3	1	427
福岡県	21	19	6,843
佐賀県	3	2	565
長崎県	8	7	1,602
熊本県	18	17	11,302
大分県	5	4	1,449
宮崎県	20	17	5,706
鹿児島県	17	17	6,297
沖縄県	7	7	4,228
合 計	523	464	210,771

教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	5	3	20,776
青森県	2	0	0
岩手県	1	1	8,470
山形県	1	0	0
茨城県	1	0	0
群馬県	1	1	6,318
埼玉県	4	0	0
千葉県	4	1	8,782
東京都	39	14	126,267
神奈川県	4	0	0
富山県	1	0	0
石川県	2	1	8,577
福井県	2	1	3,872
山梨県	2	0	0
長野県	2	1	10,249

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
岐阜県	8	0	0
静岡県	4	1	5,905
愛知県	5	0	0
京都府	7	1	7,776
大阪府	5	1	10,447
兵庫県	3	1	10,420
奈良県	1	1	8,580
島根県	1	1	6,256
広島県	1	1	1,849
愛媛県	1	0	0
高知県	2	0	0
熊本県	1	0	0
大分県	1	0	0
沖縄県	1	0	0
合 計	112	30	244,544

平成13～18年度 応募・採択状況

平成13年度

(単位：千円)

活 動 区 分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,724	1,469	971,607
子どもの読書活動	257	207	91,805
教材開発・普及活動	87	30	285,668
合 計	2,068	1,706	1,349,080

平成14年度

(単位：千円)

活 動 区 分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,813	1,590	1,141,906
子どもの読書活動	352	322	129,104
教材開発・普及活動	80	28	278,804
合 計	2,245	1,940	1,549,814

平成15年度

(単位：千円)

活 動 区 分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,910	1,723	1,275,061
子どもの読書活動	356	320	170,860
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合 計	2,360	2,070	1,693,414

平成16年度

(単位：千円)

活 動 区 分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,837	1,611	1,319,642
子どもの読書活動	351	317	209,506
教材開発・普及活動	94	23	232,335
合 計	2,282	1,951	1,761,483

平成17年度

(単位：千円)

活 動 区 分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,812	1,690	1,419,241
子どもの読書活動	325	299	227,268
教材開発・普及活動	91	27	259,884
合 計	2,228	2,016	1,906,393

平成18年度

(単位：千円)

活 動 区 分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,532	2,022	1,214,730
子どもの読書活動	549	427	192,908
教材開発・普及活動	103	28	230,150
合 計	3,184	2,477	1,637,788

里山再生と冒険ひろばづくり

実施団体名 ナルク丹波
連絡先 〒669-2355 兵庫県篠山市大野282-3
TEL:079-552-1128 FAX:079-552-1128
E-mail:sasa@rapid.ocn.ne.jp
URL:http://nalc.tamba.tv/

活動の概要

農林業の衰退で昔、人々を潤した里山は荒れ放題の密林状態。植林された杉やヒノキは手入れされることなく放置されている。その一角にジャングル状態ではあるものの広葉樹が茂り、比較的平らな民有林が残されていた。古墳があり昔の山城跡地でもあり植林されずに昔の里山の面影を残している。外遊び群れ遊びを通じて子どもたちの健全育成を目指している当団体にとっては格好の場所に思え、山の持ち主と交渉、「自由に使ってください」と約1000坪を無償で借り受けた。平成17年3月、この昔の里山を再生復活させて地域の子どもたちや高齢者が安心して一緒に集える「冒険ひろばづくり活動」を開始した。

活動の内容

平成18年3月、里山再生活動に取り組んで1年が経過。平均年齢64歳、しかも女性が中心のボランティア団体には荷が重い作業でしたが年間50日の開拓活動で約500坪の里山を再生復活させた。18年4月、開拓整備した500坪の山林を子供たちが遊べる「冒険ひろば」に変貌させる作業に着手。同時に残りの500坪の開拓整備活動を開始した。只、ボランティア団体が昔の里山を再生させ、冒険ひろばを造りだし、地域の子どもたちやお年寄りに「さあどうぞ遊びに来てください」では未来への展望がない。私たちのボランティアグループがこの里山再生保全活動から手を引いたときには地元の人たち



子どもたちとの里山再生活動

に引き継いでいただきたい。そんな願いを込めて、地域の子どもたちとの協働作業としてこの活動を開始した。

子どもたちとの里山再生活動

毎月2回、土曜日10時～12時、里山の再生作業と冒険遊びを同時に実施するため「秘密の基地作り」を毎回実施。刈り込み鋏やノコギリの使い方を指導しながら雑木や笹竹を伐採しての基地作り。おかげで未開拓地が着実に整備されてゆく。大人は倒木の排除、つる草類の伐採。凸凹地面の整備。12時に作業は終了。昼食としておにぎりやカレーを毎回用意。13時～15時「子どもの冒険ひろば」を開設。ターザンロープ、モンキーブリッジ、溪谷のつり橋渡り、見晴台からの飛び降り遊び。冒険遊びを通じて子どもたちが将来自分自身の力で生きていく術を身に付けてほしいと願い、ここでは禁止事項を出来るだけ少なくして、子どもたちが自



秘密の基地作り



里山音楽会

分自身の責任で自由にのびのびと遊ぶことに重点を置き、大人は子どもの目線に立って遊びを支え見守るだけ。

毎月1回「里山イベント」を開催

毎月1回(土曜又は日曜)「里山イベント」を開催。毎回「里山音楽会」+「お楽しみ屋台村」+「子どもの冒険ひろば」の3点セットで里山の再生保全活動への協力依頼と「冒険ひろば」での子どもの外遊びの嬉々とした様子を丹波地方全域の人たちに広くPRした。

成果と課題

子どもたちとの協働での「里山再生活動」が丹波市の広報誌に掲載されたこともあり、この里山冒険ひろばを訪れる人は増えた。嬉しいことです。しかしながら再生させた里山も1年放置すれば又密林に戻ります。地元の人たちへの引継ぎが今後の大きな課題である。



里山イベント「お楽しみ屋台村」

団体の概要

「高齢者の自立支援」と「子育て支援」が活動の柱。兵庫県の丹波地方(篠山市と丹波市)が活動範囲。会員数は支援を受ける会員も含めて150人。平均年齢64歳の中高齢者のボランティア団体。子育て支援活動は①幼稚園、小学校への「体操教室」の出前開設②手作り遊びの伝承活動など多彩。

病気の子どものときょうだい達のサマーキャンプ2006

実施団体名 病気と子どもネット・京都

連絡先 〒600-8104 京都府京都市下京区五条通高倉西入ル万寿寺町143 いづつビル6F

TEL:075-344-4626 FAX:075-344-4626

E-mail:kodomonet@npo-net.or.jp

URL:http://npo-net.or.jp/kodomonet/

活動の概要

病気の子どものたちは病状や治療によって、いろいろな我慢を強いられています。抵抗力がない、治療による後遺症がある、運動の制限があるなど、一人ひとりの状況はさまざまですが、学校で行われる行事(野外学習・修学旅行など)や体育の授業に参加できずに、つらい思いをする子どもがたくさんいます。またそのきょうだい達も家族で出かけた経験が極端に少なく、いろいろな不安や孤独感を持つ場合が多いようです。このキャンプはこうした子ども達にも、医療スタッフが同行し、病状や体力に応じた負担の少ないプログラムを実施することで、キャンプを楽しむ機会を提供できないかという思いからはじまりました。親元を離れて自然の中で、グループワークを生かした野外活動を体験することにより、子どもたち自身が成長することが、このキャンプの第一のねらいです。

活動の内容

実施期間:平成18年8月19日(土)～平成18年8月20日(日)

場所:京都YMCAサバエ教育キャンプ場(滋賀県近江八幡佐波江町)

募集対象:小学校1年生～中学校3年生 程度 約20名

活動内容:8月4日参加者・保護者との顔合わせ会、病気についての勉強会
8月19日(土)～8月20日(日)
1泊2日 キャンプ当日

1日目 草木染、野外料理、キャンプファイヤー

2日目 気球体験、水辺のプログラム(カヌー・クルーザー体験)



キャンプ場に飛び交う赤とんぼを、帽子片手に追いかけてました

スタッフ体制:キャンプ指導者、医師、看護師、ソーシャルワーカー、ボランティア等 約60名

成果と課題

このキャンプは青少年活動団体との共催で実施することにより大きな成果をあげてきました。当会は患者会や専門医・専門病院とのネットワークを生かし、公募活動や救急体制作り、メディカルサポートチームの統括などの役割を担っています。キャンプにはいろいろな制約があり、身体的な負担の重いプログラムや、病状の悪化や急変が考えられるプログラムは実施できませんが、キャンプを専門に行っている指導者が中心となってプログラム作りを行うことで、キャンプ本来の冒険の楽しさを十分味わうことのできるバラエティーに富んだ内容となっています。これまでは、移植をはじめとした高度の医療を受けている子どもたち



グループごとに作ったご馳走を持ち寄り、みんなで夕食バイキング



水泳監視のスタッフの手厚い見守りのもと、初めてのカヌーを楽しみました

ちや、野外活動はあきらめていたという子どもを何名も受け入れてきました。リピーターとして参加する子どもが6割以上を占め、中には次年度も参加することを目標にしている子もおり、継続的な事業にするための組織作りやスタッフの育成、資金の確保が大きな課題となっています。

病気の子どものたちは普段の学校生活においては、周囲から気づかわれる立場になりがちですが、同じ病気を経験した仲間や異年齢集団の中では、自分自身が主役となり年下の子を気づかう存在になることもでき、新しい環境や人間関係のなかで日頃出せなかった自分自身を表現できるチャンスを得ることができるよう。そして親からの自立(親にとっては子離れや休息)の良い機会ともなっています。

重症の難病の子どもたちを保護者の同伴無しに受け入れることは難しく、このようなキャンプは全国でもほとんどありません。このキャンプの実践を通して、病気の子どものたちのキャンプにおけるリスクマネジメントのあり方やプログラム内容・実施方法についての検討を重ね公表していくことで、日本各地に同じようなキャンプの取組が生まれ、病気の子どものたちの豊かな体験の機会が増えることを期待しています。

団体の概要

病気のために多くのつらさや痛みを乗り越えなければならない子どもたちが、病気だからといって我慢を強いられることのない環境作りに取り組んでいます。電話やメールによる相談活動(毎週火曜日10時～15時)、情報誌やニュースレター(年4回発行)、HPを通じた情報発信、サマーキャンプの企画などを行っています。

子ども長期自然体験村ひろしま

実施団体名 子ども長期自然体験村ひろしま実行委員会
連絡先 〒733-0004 広島県広島市西区打越町11-8-207
TEL:082-237-1163
E-mail:nkk2002@mac.com

活動の概要

子ども長期自然体験村ひろしまの会場である共盛老人集会所(旧:酒森小学校、昭和46年に廃校)は、広島県山県郡北広島町内にある。共盛地区では人口の高齢化が進み、地区内に学校へ通う子どもはいない。そんな中で、平成8年から農村都市交流、自然体験、環境教育などをキーワードに自然学校「地球派塾」を地元住民主導で開催してきた。

地球派塾の運営に関わる地元住民から、「地域に子どもの声が聞こえないことはとても寂しい」「小学校が廃校になったとき、最後の卒業生は24名だった」などの思い出が聞かれ、「それだったら夏休みの間だけでも、学校を開き子どもの教育の場にしていこう」「募集する子どもの数は、最後の卒業生と同じ人数の24名がいい」ということになり、地球派塾を運営する地元有志、北広島町、北広島町教育委員会などで構成する子ども長期自然体験村ひろしま実行委員会を組織し、学校が夏期休業中に長期自然体験村を開催することになった。対象は小学校4年生から中学生で、毎年100名程度の応募の中から24名を抽選で選んでいる。平成12年の第1回から数えて昨年まで8回を数えるに至った。



グループで助け合って沢登り



ゴリ釣りチャンピオンに挑戦

活動の内容

「じっくり暮らす とことん遊ぶ〜 夏の分校1/2ヶ月〜」

をコンセプトに14泊15日の日程で実施している。「じっくり暮らす」では、子どもとスタッフがチームを組み、毎日午前中に町内の農家へ出かけ農作業を体験する他、ホームステイによる地元の暮らし体験や食紀行・川紀行などと銘打った特別体験プログラムなどがあり、地元の人、生活、文化とふれあっている。また、「とことん遊ぶ」では、自然体験をベースにアドベンチャープログラムや環境教育的なプログラムなどを組み合わせて、地元の自然資源を十分活かす工夫が行われている。

もう一つ、自然体験村の大きな特徴がある。それは24名の参加者が「分校会」という自治組織(学校の生徒会にあたる)をつくり、15日間のキャンプの中で「自治」を育てていくことだ。キャンプスタート時は、



農作業体験で花の植え替えのお手伝い

主催者が提供するプログラムが中心になっているが、分校会の成長とともに提供型プログラムが少なくなり、逆に分校会主導のプログラムが多くなっていく。プログラムの後半では、分校会がキャンプの全てを創り、運営する「自分たちで創る3日間」が準備されている。この3日間を分校会が企画・運営することで、子どもたちは大きく成長する。子どもたち一人ひとりが、「自分の頭で考え、自分のことばで語り、自分の意志で動く」ことができるようになることこそ、この自然体験村の目指すところである。

成果と課題

長期キャンプはどのような効果があるか、以前保護者にアンケートを実施したことがある。キャンプ終了直後、子どもたちは15日間のキャンプ中に身につけたこと(例えば、洗濯・食事作り、後片付け、人の世話をする等々)を家庭の中でも積極的に実践している。その期間は、約1ヶ月程度と回答した保護者が多かった。また、3ヶ月後には多くの子どもがキャンプ参加前の生活態度に戻っているという回答も多く見られた。

私たちが実施している長期キャンプの効果は3ヶ月なのか?と残念でならない。それは、キャンプの生活が非日常であり、そこでの体験と日常をうまく繋ぐ手だてが講じられていないからであろう。非日常と日常を繋ぐためには、保護者の協力が欠かせない。そのような意味で、今後の大きな課題として、保護者とのコミュニケーションの構築をあげておきたい。

団体の概要

平成8年から実施している自然学校「地球派塾」の運営メンバーを中心に、地元行政・教育委員会・自然体験活動のプロなどで実行委員会を組織し、毎年1回の長期自然体験村を開催している。平成19年度で9回目を迎える。

自閉症児の自己決定を促すための 視覚援助・構造化された自然体験キャンプ

実施団体名 特定非営利活動法人 You a Family Club(障害者・児 家庭自立支援)
連絡先 〒650-0015 兵庫県神戸市中央区多聞通り2丁目5-13 プレコート・オカダ502
TEL:078-360-2234
E-mail:youclubr@guitar.ocn.ne.jp
URL:http://www7.ocn.ne.jp/~youclub/

活動の概要

自閉症や知的障害を持ち合せていたり、コミュニケーションが取りにくい子ども達は、自己選択や自己決定をする場面や機会が余り多くない。このキャンプでは、予定された2日間の行動を全て構造化し、自己選択・自己決定を受け入れてもらえることで、子ども自身が満足できる2日間を過ごすことができ、また、やり取りの中に応用行動分析(ABA)を導入させて好ましい行動を引き出し、ルールを守れば心地よく人とのやり取りができることや、自分自身が選んだ活動を楽しめるということを体験する機会になればと企画した。

活動の内容

プログラム内容

1日目

バスでキャンプ地へ移動し、午後ぶどう狩りと草スキー、にじますつかみと水遊びを行った。また夕食前にはうどんをこね、夜には花火、星観察を行った。

2日目

朝からうどん作りの仕上げをし、すいとんを作った。その後工作や水遊びなどを行い終了式を行った。

しおりには、文章の横に各指導者が携帯する視覚支援カードと同じ写真を貼り付けて行動を予告した。事前に配布・学習したことで児童生徒は何度も確認ができ、夏休みゆえに渋滞して4時間座ることを余儀なくされたバスの車内の中でも、しおりをその手に握りしめながら繰り返し見ながら落ち着いて座っていた。活動の拠点となる場所には、一こまの活動を拡大して掲示し、更に行動を視覚で促した。

立ち位置には足型を、座る場所に



さらさ高原 草スキー すべりが悪く、子ども同士が互いに引っ張り合いをしました

は丸い囲いを置き、方向の移動には矢印を使用して場所を指定した。時間管理にはタイムタイマーを利用し、時間を量で表すことで始めと終わりを明確にした。チラチラとカードや時計を確認しながらカードを指差したり、肯定的な言語指示にスムーズに従い、誰一人としてパニックを起こすことなく、全員に正しい行動を誘発することができたことは大きな成果である。普通なら一人や二人は集団からはみ出る子どもがいて、「そっちへは行かないよ」という大人の声がするはずだが、誰一人として勝手な行動を取る子どもは見当たらなかった。

一番誇らしい事は、キャンプの間の集合写真で何回も一列に並び、そして自ら選択・決定した課題に積極的に取り組めた事である。構造化を見て、指定された場所に自ら行き、座り、きちんと目線を合わせて最後まで動くことなく話を聞くことができた。記念写真の際にも、長時間動かずにカメラを見続けることができたことは、本当に素晴らしいことである。

2日目の朝には担当児について指



びわここどものくに 電気自動車 一人ひとり選んだもので指定の時間遊びました

導者と保護者が話し合いを持ち、1つの目標を設定して1日に取り組むことで更にキャンプのモチベーションを上げる事ができた。その短期目的はその日一日でほぼ達成された。

成果と課題

キャンプを終えた1週間後の授業日にお母様方から頂戴した言葉は更に私たちの勲章となった。

「帰ってきてから人の話が聞けるようになりました!! 是非また度々企画して頂きたい。」

「自分の意見を人に伝えられるようになりました。嬉しいです。」等。構造化とABA、視覚支援や予告の大切さと偉大さを再確認した。10ヵ月後の19年6月に保護者を対象に取ったアンケート調査では、スキルが定着しているとの記載が多くあった。

最近エコラリアがほぼ無くなり、いつでも的確な返事ができる様になったS君。人の言葉が理解できているという証明である。きちんと目を見て話ができる様になったD君。人の存在に気付けたのである。周りの子どもや状況をチラチラ確認しながら皆と同じ場所で同じ行動ができる様になったT君。それなりの教育を受ければ、認知力は上がるという証明をしてくれた。日々の積み重ねと、信頼関係を土台にしての実践体験は、それぞれの成長を歴然と表してくれた。大人は一人ひとりに真摯に向き合い、深く受容することの大切さを子どもから学びたい。子どもたちは受容され、自分自身に自信を持ち、積極的に物事に関わっていけるようになるだろう。何より大切なことは子ども自身が楽になることであると考えます。今後も更なる援助を模索したい。

団体の概要

当団体は障害者の自立に向けて生活に密着させたきめ細かな支援をすることにより、介護者側の意識と介助の変化、またそれによる障害者・児の生活の質の向上を目指しています。当事者が目を輝かせ自ら生き生きと生きる様で、家族もまた向上する相互作用効果は見逃せません。ノーマライゼーションや役に立つ介助法を地域に浸透させ障害者・児及びその家族に寄与することを目的に活動しています。

子ども里山探検隊 春・夏・秋・冬

実施団体名 里山ルネッサンス

連絡先 〒489-0068 愛知県瀬戸市上松山町1-195

TEL:0561-84-3935

E-mail:hae06364@nifty.com

URL:<http://www.geocities.jp/hakuchouza2002/satoyamatankentai/omote.html>

活動の概要

豊かに広がる棚田や雑木林で代表される里山は日本の原風景でもあり、日本人の自然観や文化を育んできました。一方資源の枯渇や地球温暖化など地球環境がますます悪化している現在、里山に住む人々が行っていた「持続可能な開発」をいま一度見つめ直すことにより豊かな人間性の回復と循環型社会形成の糸口を見つけることが求められています。

そのために子どもたちに、

- ・人間と里山とのかかわりを等身大で感じ取る場を提供することにより自然からエネルギーをもらう。
 - ・自然と人間のかかわりを学ぶことの楽しさや驚きを感じてもらうことによって知的好奇心をはぐくむ。
 - ・結果として自然への畏敬の念と優しさを持つようになる。
 - ・更に衣食住や危機管理など生活上の工夫すら獲得できるようにする。
- ことをめざして活動をすすめています。



仲良く並んで田植え体験

活動の内容

春夏秋冬の年間4日、原則として午前は【里山の暮らしを探検しよう】、午後は【里山生活を体験しよう】のテーマで、季節に対応した下記プログラムを実施しました。
【春】稲の一生を現物や実験を通じて学んだ後、田んぼに入り代掻

き田植えを行いました。最初は泥にはいるのをいやがっていた子どもも最後は泥だらけになりながら田植えを終えました。素足に伝わる泥の感触が忘れられなくなったようです。



みんなで作った秘密基地

【夏】雑木林の役割を歩いて観察したあと、秘密基地を作ったり、小川で魚取りを行いました。長く手入れをしていなかった雑木林に子どもたちの歓声がこだましていました。また雑木林も光と風を受けて元気になったようでした。帰宅後興奮してなかなか寝付けなかった子どももいたとのことでした。

【秋】お米の不思議発見ワークショップで1株の稲がごはん何杯になるかなどを調べた後、手作業による稲刈りや脱穀を体験しました。お米の不思議を学んだ直後とあって、落ち穂拾いに真剣になったり、切り株を調べて何本に分けつしているかなどを数えている子どももいました。



刈り取った稲は天日干しします

【冬】落葉後の雑木林で、木登り・ロープと滑車を使った人間ロープウェイ・2階建てブランコなどの遊びを楽しんだ後、蔦や小枝、竹、稲刈りした藁などを使ってネイチャークラフトを行い、里山の恵みを味わいました。普段室内遊びが多い子どもたちですが、野に放った犬や猿のように雑木林を駆けめぐり、子どもってこんなに野遊びが好きなんだとあらためて感じました。



雑木林遊びで一番人気の「滑車でゴー」

成果と課題

普段はメンバーだけで里山保全活動を行っています。この楽しさを子どもたちにも経験させてやりたいと呼びかけたところ毎回50人をこえる応募があり、関心の高いことがわかりました。そしてすぐ近所に里山が広がっているにもかかわらずなかなか足を踏み入れるきっかけがない一般市民に、ちょっとした工夫で里山の恵みを楽しんで頂くことができて主催者側としても二重の喜びとなりました。

今後とも活動の拠点である田畑や雑木林の整備を行うとともに、里山の恵みを味わうことのできるプログラムメニュー充実に努力していきたいと考えていますが、応募者増加に対応したスタッフの確保が課題です。

団体の概要

大都市近郊の田んぼや雑木林で1年を通じて稲作・畑作・雑木林整備などの活動を行っており、そこから米作りをはじめとした里山の仕組みや地域の文化について学び、様々な生命をはぐくむ森と里の自然を、文字通り地に足つけたところで感じ取っている市民団体です。

あそび塾合宿

実施団体名 上越おやこ劇場

連絡先 〒943-0823 新潟県上越市高土町1-9-7
TEL:025-522-4384 FAX:025-522-4384

活動の概要

少子化のため子どもたちが孤立化し、地域ではなかなか成立が難しくなっている集団遊び。学校という教育の場を通じて、同じ学年の子どもたちの友達関係は何とかそれでも成立はしていますが、学年を越えた“異年齢の遊び集団”ともなるとちょっと厳しいです。お互いの信頼関係、年上に対する憧れ、年下に対する思いやりを縦軸とした子ども自治集団は望むべくもないという状況が私たちの活動する上越市での現実です。

この“異年齢の遊び集団”を子どもたちに何とか体験して欲しい、と考えたのが「あそび塾合宿」でした。しかし、いきなり子どもをイベントで集めておいて「さあ、勝手に遊べ！」というのは無理があるというものです。そこで、子どもたちをいきなり大きい集団に放り込むのではなく、少人数(6人)の班に分けた上で、上越おやこ劇場のメンバーによるおとなを集団のリーダーとして位置づけることにしました。

活動の内容

上越おやこ劇場 あそび塾合宿

平成18年12月9日～10日

妙高市 国立妙高青少年自然の家 にて

初めて参加した子どもたちはまず、おとなのリーダーからの無理のない適切な指示のもと、この合宿でのポジションをつかみます。リーダーは初めて出会う子どもたちどうしの関係に慎重に留意しながら、ひとつのことを一緒に取り組むように仕掛けます。その結果、班への帰属意識が高まり、その中で異年齢の関係が生まれていきました。子どもどうして仲良くなりつつ、子どものリーダーが自然な形で生まれるこ

とをおとなは応援するという立場です。

合宿全体のプログラムは、専門技術を持つ外部講師が班に投げかける課題として作り出しました。野外での集団ゲームを行うプロジェクトアドベンチャー(PA)と、天文観察と植物・昆虫などの自然を観察するネイチャーゲームを主体にした活動を全体で行うこととし、その専門分野を講師依頼しました。「自然体験」という入りやすい入り口から全体活動への自然な流れを演出しつつ、他の遊びを上越おやこ劇場のおとなリーダーが仕掛けて、子どもの遊び集団が1泊2日の間に生まれるようにしたのです。

残念ながら、日程のほとんどが雨天ということで、専門講師の方々にはほとんど「お話」で関わっていただくことになってしまいましたが、その分、室内で行いながらもダイナミックな遊びを仕掛ける時間をたっぷり取ることとしました。



名札交換ゲーム

具体的には①無言で名札を交換し、誰のものかわからない名札をつけて、その人を探して次々交換していくゲーム。これでずいぶん打ち解けあいました。②講師の方にもご協力いただき館内のウォークラリー。講師から学んだ自然クイズを軸に館内を回りました。③だるまさんがころんだ・手つなぎ鬼等々、思いつくかぎりの伝承遊び。ルールを知っている子どもから聞き出しつつ、新たなルールを加え、オリジナルなゲームに変えていきました。④

ジャグリングやダブルダッチなど「特殊技能」の教え合いっこなど。



応急手当の講習の様子

成果と課題

実は、この「あそび塾合宿」は今年単年度の取組ではなく、形を変えながらも継続してきました。その中から様々な「技持ち」の子ども、とくに高学年の子どもにはそれを披露する場所としての「あそび塾合宿」としても機能しており、その子どもたちがリーダーとなって技を教えていく、という現象が自然に生まれています。こちらが考える以上に子どもたちは集団を生み出す能力を持っているようで、そのたくましが嬉しかったり安心したり、“今の子”もなかなかやるじゃないの、というのが関わった私たちの感想です。

「遊び」をおとながリードしていくことに対する一定のためらいを持ちつつも、仕掛けたおとなの思惑を大きく超えて子どもの集団が成り立つことを、今、実感しています。合宿・キャンプ・ハイキング・こどもまつりなど形を変えつつも、子ども世界に積極的に今後も“介入”していったらいいのだ、という自信を得つつある次第です。



じゃんけんゲーム

団体の概要

乳幼児から青少年大人迄、あらゆる年代が育ちあえる場をめざした活動を展開しています。助産師さんによる相談(通年)・就園前の親子を対象とした野外活動サークル(通年)・畑の耕作・小学生対象のあそび塾(不定期・合宿含)・高学年(小5以上)の合宿・舞台芸術の鑑賞・こどもまつり・みそ作りなど。

里山田んぼの学校

実施団体名 立神峡公園管理組合

連絡先 〒869-4603 熊本県八代郡氷川町立神648-4

TEL:0965-62-1543 FAX:0965-62-1543

活動の概要

この活動は昔ながらのお米作り体験だけではなく、田んぼにまつわる「食と命」を考えてもらおうと企画しました。田んぼは、多くの生きものがかかわっている住み处でもあり、私たち日本人にとっては、大切なところのよりどころでもあります。そんな貴重な稲作文化、里山文化から学ぶ取組みで、初回の田植えから稲刈りまで年間を通じて活動をしました。



雨の中の田植え

活動の内容

拠点となる里地屋敷には、ゴエモン風呂・かまど・土間・囲炉裏・火鉢などがあり、薪や炭を使った昭和30年代の農家の生活もあわせて体験しました。その屋敷のそばにある小さな三枚の棚田には山からの湧き水が流れ込んでいます。最初の活動では、その水の流れを確認することから始めました。稲の生育には水の管理が非常に大切なこと、夏の間の草取りの苦労やいのししから田んぼを守るための網張りのことなどを説明して、収穫までのつながりを意識してもらうことがねらいでした。手植えでの田植えには、綱張り役と田植



がんづめを使っての草取り

え役のコンビネーションが大切でしたが、地元農家の方と参加者の子ども、大人とで和気あいあいと植えることができました。田植えがすんだあとは、里地屋敷でおつかれさま会です。昼ご飯を食べながら、交流を深めました。

そして第2回は田の草取りの作業です。夏の暑い時期でしたが、昔の農具のがんづめを使って、汗を流しました。田んぼにはいろんな生きものがいることがわかるし、田んぼの役割や生きもの同士の関係を考えるきっかけになったと思います。また、里地屋敷の周りには、アリジゴクがたくさんいて人気でしたし、縁側でのお茶の時間もとれたので、のんびりと農家の一日をすごすことができました。

第3回はかかしづくりです。竹と古着を上手に使って、思い思いのかかしができて、田んぼを守って



棚田とかかし

くれるようにお願いをしました。

第4回はいよいよ稲刈りです。手鎌を使って刈り取り、掛け干しまでしました。台風と虫のために収穫は多くはなかったですが、その分コメ作りの苦労や食べもの大切さが実感できたような気がします。



稲刈り

成果と課題

当管理組合にとっては、平成12年から取り組んでいる環境教育活動のベースとなる活動ですが、毎年感じることは、決してマニュアルどおりいかないということです。食べものを作るときに、人間だけのことを考えて作業を行ってもうまくいかず、生きものや天候や、水のことをいつも気にしながら、活動しています。基本的には、お天気に助けてもらいながら(感謝しながら)活動する、そんな感想を参加者に持ってもらえたらよいのではと考えています。参加者にとっては、単なる体験で終わることなく、循環的な暮らし方の実践のひとつとして、次の世代に伝えていく大切さを実感してもらえるよう、活動に取り組んでいます。

団体の概要

里山をテーマに整備された立神峡里地公園で、施設の管理運営だけでなく、環境教育活動に取り組んでいます。小さなビジターセンター「ふくろう館」や「さとやま環境学習交流館」「里地屋敷」を拠点に人と自然との共生を考える「里山暮らしの学校」を開校。地元の小学生が里地屋敷で宿泊をしながら通学する「通学合宿」も毎年実施。

どんぐりや木の実・木の枝などを使った工作クラフト製作活動

実施団体名 堺千年の森クラブ
連絡先 〒590-0036 大阪府堺市堺区南丸保園1-12
TEL:072-228-7240
URL:<http://www.h5.dion.ne.jp/~sakaisen/>

活動の概要

森が大切な理由や自然環境の大切さを同時に教えながら、毎月1回第一土曜日に、子どもたちに、自然素材(どんぐり、木の枝など)を使ったオリジナルなクラフト工作を指導しています。

21世紀を担う、夢を持ち、自然と正しく触れ合える健全な子どもたちが育っていけるように、堺市の都市空間で育っている子どもたちに、素朴な自然素材に触れながら、クラフト作りや自然素材を使ったゲームなどを体感しながら、学んでもらっています。



3月のクラフト教室 小枝の自由工作で、動物の置物づくりの製作風景

活動の内容

堺市内にある、世界最大の仁徳天皇陵に側近した大仙公園および堺市都市緑化センターをベースにして、毎月1回の定例クラフト工作会を企画・運営している市民ボランティア・グループです。主体は子どもたちに、自然素材やリサイクル(牛乳パックなど)を使った、面白工作を紹介し、実際に作ってもらい、自分で作ったクラフト作品の喜び、自然素材の大切さなどを、直接触り、感じてもらうことから始めています。



6月のクラフト教室の作品紹介 せみ、象、もっくんのブローチ

平成18年度の実施プログラムは、以下のようなものです。

- 4月 木の枝ブローチ、紙飛行機
 - 5月 草花の葉、うぐいす笛、独楽等
 - 6月 小枝の工作／せみ、象、犬
 - 7月 紙すき体験、しょうのう舟で遊ぶ
 - 8月 竹で作る本格的な水鉄砲
 - 9月 種のトンボや花のブローチ
 - 10月 マツぼっくりのクマさんとカメさん
 - 11月 どんぐり人形／たぬきとふくろう
 - 12月 自然素材のクリスマスリース
 - 1月 牛乳パックの雛人形 ほか
 - 2月 竹のうぐいす笛とミニすだれ
 - 3月 小枝の工作/ウサギ、スズメ、鼠
- そのほかに、年2回、大イベント(夏休み子どもイベント、秋のどんぐり拾いイベント)を開催します。各種のクラフト10ゾーンやすいか割り、秋はどんぐりクイズ、どんぐり工作、マツボックリ釣りやマ



10月のクラフト教室 マツぼっくりを使った、動物づくりの製作風景

ツボックリ輪投げ、ロープ遊び、自然観察会などをほぼ1日かけて行っており、近隣から子どもたちが数百人集まります。



毎月掲げている、クラフト教室案内の堺千年の森クラブの手作り看板

成果と課題

今回、初めてゆめ基金にエントリーさせていただき、今までは予算がなくて不自由していた活動が、本当に充実した活動に生まれ変わりました。これもゆめ基金の成果だと思います。

毎月1回と定例で開催するイベントなので、子どもたちのファン層も多くなり、友達から友達を誘っての参加も増えてきています。堺千年の森クラブ自体は都市近郊にある大仙公園の一画で、平成の森づくりを市民ボランティアで集ったクラブですが、森づくりにおける人と人との交流や、森についての学びをする集いから、このような楽しいイベントも定例的になり子どもたちから大人の方々にも人気を博してきております。

これから更に、マンネリ化せず、新しいものを導入して、継続的に続けてゆけるようなクラフト工作活動を目指したいと思います。

団体の概要

平成14年に堺市民ボランティアで組織した「堺千年の森クラブ」は、世界最大の仁徳天皇陵にある都市公園、大仙公園の一角で、平成の森づくりを行っております。クラブは、大きく3つの部会に分かれて、活動しております。① 調査部会…森にかかわる土づくりや育苗、森の維持管理とその技術習得など② 広報部会…森づくりのホームページや活動ニュース「堺森ラボ」の発行・編集など③ イベント部会…森づくりにかかわる楽しいイベントの企画・運営など 自然素材を使ったクラフト工作は、イベント部会のクラフト担当が推進しております。

一サタデイ・チャレンジやるっ子！くらぶ

実施団体名 やるっ子！くらぶ

連絡先 〒790-0054 愛媛県松山市空港通1-5-17
TEL:089-972-0304 FAX:089-972-0304
E-mail:yamasita@eng.ehime-u.ac.jp

活動の概要

学校が週休二日制となり、子どもたちの居場所づくりや地域の大人との交流を目的とした「一サタデイ・チャレンジやるっ子！くらぶ」の活動を毎週土曜日の10時から12時の間たちばな小学校及びその周辺の場所を借りて行っている。基本的に月の第1週目は「トラック&フィールド」、第2週目は「グラウンドゴルフ」、第3、4週目は「自由遊び」としている。その中に季節に応じて付近の農家の方から農地を借用し、すいか、さつまいもの苗植及びそれらの収穫作業を通じて土に親しむことを学んでいる。夏休み中の土、日を利用して、一泊でやるっ子！キャンプを行い、集団生活の大切さを学んでいる。そのほかにも、「やるっ子！教室」として、スライムを作ったり、人工イクラを作ったりして身近な科学の不思議を体験し、子どもたちに理科に興味を持ってもらうことを目的としている。



トラック&フィールドの練習風景「これで運動会は大丈夫」

活動の内容

基本的に月の第1週目は「トラック&フィールド」、第2週目は「グラウンドゴルフ」、第3、4週目

は「自由遊び」としている。「トラック&フィールド」は、ストレッチから始まり、ジョギング、ラダートレーニング等、早い体の動き、柔軟性の向上を目指してプログラムを組んでいる。「グラウンドゴルフ」は、地域の高齢者で構成している柿の木クラブというグラウンドゴルフを通じて交流している団体の高齢者の方々の協力を得て、子どもたちにグラウンドゴルフを教えていただき、かつ地域の高齢者との交流の場となることを目指して活動している。「自由遊び」は、子どもたちが個々で遊びを考え異年齢間での交流の場となっている。



キャンプにおいて七夕飾りを作りました

夏休みにはたちばな小学校の校庭を借りてキャンプを行った。7月22日、23日の両日一泊二日のキャンプを行い、テントの張り方、炊事の仕方、集団生活の重要性について学んだ。また地域の休耕田を借り受け、4月22日にスイカの苗植え、5月27日サツマイモの苗植え、6月3日ジャガイモ・タマネギの収穫祭、10月21日サツマイモの収穫祭及び焼き芋大会をそれぞれ行い、土に親しみ、自然の活力を学習した。その他に、やるっ子！教室として、ガラス細工教室、スラ



テントの張り方を学習中

イム教室、炭で電池を作ってみよう、しめ縄づくりなどを体験し、自然現象などについて多くのことを学んだ。



火起こしを体験「なかなか火はつきません」

成果と課題

毎回50～80名の子どもたちが参加し、規定のプログラムで運動をしたり、各自で遊びを工夫して自由遊びの時間を使ったりして、子どもたちの安全安心な居場所づくりの目的は達成できている。ただ、保護者の参加が少なく、ボランティア任せにしている感がある。保護者の参加を促す企画を今後検討していかなければならない。

団体の概要

子どもたちの安心安全な遊び場所・居場所の提供をし、自然とのふれあい、異年齢間での人間関係形成を目指した活動を行っている。また地域の高齢者クラブである「柿の木クラブ」でグラウンドゴルフを教えていただくことにより、学社融合の流れの中で地域の大人との交流をも含めた活動を行っている。

大木堀レンジャー養成楽校

実施団体名 堀と自然を守る会

連絡先 〒830-0416 福岡県三潴郡大木町大字八町牟田255-1 大木まちづくりセンター内
TEL:0944-32-1183 FAX:0944-32-1183

活動の概要

堀(2次的自然)と人が共生していくための先人の長年にわたる知恵の積み重ねである「堀文化」。このDNAを次世代に移植することをねらいに行った。先人たちが堀と濃密にかかわってきたことの意義を、体験を通して理解してもらうため、子どもたちにもわかりやすい指標として、「大木堀レンジャーの7か条(下記参照)」を設定し、それぞれの条件をクリアするためのプログラムをつくり、大木堀レンジャーとして養成した。

大木堀レンジャー7か条

- 第1条 川まつりの意味を知っている
- 第2条 堀の生きものを知っている
- 第3条 ハンギリに乗れる
- 第4条 水車を踏める
- 第5条 堀干しの知恵・工夫がわかる
- 第6条 ひぼかし(保存食)が作れる
- 第7条 堀で泳げる(遊べる)



堀の底にたまった泥土を専用の桶でかき出す

活動の内容

川まつり体験学習

堀文化の象徴的な行事「川まつり」の意義①水田に必要な水を確保できた喜びと感謝②子どもたちの水難防止)を学んだ。長老から指導により藁細工で飾り物をつくり、養成楽校の安全祈願を行った。

堀の生きもの調査と水車体験

フィールドにて生きものの採取と観察を行い、水辺の生態系を学んだ。また、「水車」を踏んで、堀の水を田んぼに取り入れる体験を行った。



水車を踏んで、堀の水を田んぼに入れている

舟遊びと魚釣り体験

かつて、堀は子どもたちにとって「遊びの宝庫」であり、貴重な体験の場であった。魚釣りをはじめ、舟遊びでは、身近な堀ではあるが、水上から景色を眺望することは初めての体験(大人もほとんど経験がない)であり、大いに刺激を受けた。



舟を使って、水上から水辺の探検を行う

「ハンギリ」でのヒシの実取り体験

「ハンギリ」でのヒシの実取りは、この地方の秋の風物詩の1つ。子どもたちは、バランスを崩すと転覆してしまうハンギリを上手に乗りこなしてヒシの実を採取した。採ったヒシの実は、その場で塩茹でにして食べた。



「ハンギリ」と呼ばれるたらい舟に乗ってヒシの実を取る

堀干しとひぼかし作り体験

堀干しは、冬場に堀の水を落として、そこに溜まった泥土をあげる維持管理作業のこと。泥土は田んぼの肥料となり、そのとき採れる魚は保存食「ひぼかし」にされる。堀の底に入り、泥土が堆積した状態や魚の種類・数を確認するとともに、ドロだらけになって、泥かきを体験した。ひぼかし作りについては、地域の方から作り方を学ぶとともに、実際に試食し、かつての保存食を味わった。

大木堀レンジャー認定授与式

これまで体験したことを、それぞれ分担して壁新聞を作成するとともに、堀レンジャー第1期生として今回3人を認定した。

成果と課題

子どもたちが、1つ1つのプログラムの意義を理解することは容易ではないが、「体験した」という事実は、これからの成長の過程の中で、いろいろな学習と相まって、いつか活かされることを期待したい。当面は、意義を理解することよりも、とりあえず「体験」することにウェイトをおいた取組になると思われる。したがって、この取組を継続させていくことは重要な意義がある。ノウハウはあるものの、事業を支えてくれるスタッフが不足しがちで、今後どのようにして人材を供給していくかが課題といえる。

団体の概要

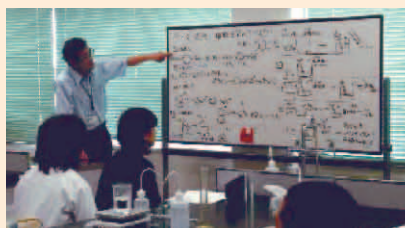
堀とのかかわりを持ってもらうため、「観る(=実際に堀に出かけ、水質や動植物を観察する)・学ぶ(=地域の古老や専門家などを招き、堀文化や生態系などを学ぶ)・創る(=昔の行事を再現したり、新しいイベントを実施したりして、堀との新しいかかわりを探る)」をテーマに活動しているほか、地域コミュニティ活動のサポートなども行っている。

身のまわりのおもしろ化学実験

実施団体名 鈴鹿工業高等専門学校生物応用化学学科化学実験グループ
連絡先 〒059-0294 三重県鈴鹿市白子町 鈴鹿工業高等専門学校生物応用化学科
TEL:059-368-1830 FAX:059-368-1820
E-mail:katsuto@chem.suzuka-ct.ac.jp
URL:http://www.suzuka-ct.ac.jp/chem/home/exlect.htm

活動の概要

本活動は、身近な物質や現象を対象に、様々な分野の化学実験を実地に体験させることにより、中学生の化学に対する知的探究心を喚起することを目的としている。平成18年度は、8月1、2日に活動を実施し、三重県内外の中学生66人が参加した。



講師による解説(染料で繊維を染めてみよう！)

活動の内容

平成18年度実施分のスケジュールは以下の通りである。受講者は活動期間中に、7つの実験テーマを体験した。

8月1日(火)

・9:30～11:00開講式(大講義室)
講師代表挨拶、講師紹介、傷害保険。
連絡事項の伝達など

- ・11:10～12:30 実習Ⅰ
- ・12:30～13:10 休憩(昼食)
- ・13:10～14:30 実習Ⅱ
- ・14:40～16:00 実習Ⅲ

8月2日(水)

- ・9:30～9:40 連絡事項の通知、アンケートの依頼
- ・9:40～11:00 実習Ⅳ
- ・11:10～12:30 実習Ⅴ
- ・12:30～13:10 休憩(昼食)
- ・13:10～14:30 実習Ⅵ
- ・14:40～16:00 実習Ⅶ
- ・16:00～ 閉講式

次に、平成18年度実施分の実験テーマを以下に示す。

- 1.染料で繊維を染めてみよう！
(橙色染料の合成とそれを用いた染色)



薄層クロマトグラフィーの実験(サインペンの色素や化合物を分ける)

- 2.サインペンの色素や化合物を分ける
(薄層クロマトグラフィーによる色素の分離)
- 3.色・色々
(紫外可視吸収スペクトルの測定)
- 4.磁石にくっつく液体の不思議
(磁性流体の観察)
- 5.コンピュータでプラスチックをつくる
(分子動力学計算による高分子の構造最適化)
- 6.DNAを使って絵を書こう！
(遺伝子DNAの抽出と染色)
- 7.顕微鏡で細菌を観察してみよう
(細菌の染色と顕微鏡観察)

以上のテーマは鈴鹿高専生物応用化学科の有する研究機材を利用したものであり、受講者である中学生からみると専門的な内容を含んでいる。そこで、受講者の関心を保つために、実験対象としては身のまわりにある物質や現象を採り上げることを第一に考慮した。例えば市販されているサインペンのインクに含まれる成分をクロマトグラフィーで分離したり、日常の食卓に上がる野菜からDNAを抽出したりする実験を行った。

また、他にも下記(i)～(iii)に述べる工夫を取り入れた。

- (i)受講者を少人数(10人以下)の班



パソコンを用いた計算化学実験(コンピュータでプラスチックをつくる)

に分けるとともに、1つの実験テーマを講師と補助指導員との計3～4人で指導することにより、個々の受講者までサポート可能な体制を整えた。(ii)実験テーマを企画する際に、実験結果が視覚的に明確であることを重視した。また、中学生にも再現性よく結果が得られることに留意し、事前に十分な予備実験を行った。(iii)中学生向けに平易な表現を用いた実験テキストを独自に作成し、受講者に配布した。さらに配付したテキストに基づいて、実験操作を行う前に講師が解説を行った。



ブロッコリーからのDNA抽出実験(DNAを使って絵を描こう！)

成果と課題

活動中に行ったアンケートの結果*から、多くの受講者は本活動を通して化学に対する関心を深めてくれたと判断できる。さらに、「中学校では使えない高度な実験装置を使えて嬉しかった」「内容は難しかったが、これから本格的に学びたい」という趣旨の意見が多くみられたことから、本活動の目的(上記[活動の概要]を参照)はかなりの程度まで達成できたといえる。

一方で、「実験の背景が難しく理解しにくかった」という意見も見られた。実験のレベルを下げることは高等教育機関の施設を用いる意義を損なうことにつながるので安易に行うべきではないが、実習時に行う解説をより分かり易くすることは今後の課題である。

*http://www.suzuka-ct.ac.jp/chem/home/lecture/2006/2006.htm を参照

団体の概要

本活動団体は、鈴鹿工業高等専門学校・生物応用化学科に所属する教職員有志により構成される任意団体で、毎年中学校の夏休み期間中に、鈴鹿高専生物応用化学科において中学生対象の化学実験講座を開催している。

雪の結晶をつくって観察しよう

ー日本最初の雪の科学書「雪華図説」を科学するー

実施団体名 古河市子ども体験活動実行委員会

連絡先 〒306-0033 茨城県古河市中央町3-10-56 古河歴史博物館

TEL:0280-22-5211

E-mail:rekishi@city.ibaraki-koga.lg.jp

活動の概要

会場＝古河歴史博物館

講師＝北海道旭川西高等学校教諭
平松和彦氏

雪と水と氷の関係を知る実験

①平松式人工雪発生装置の製作

②人工雪の成長過程を観察

講師による雪の結晶生成メカニズムの説明

③雪の赤ちゃん”ダイヤモンドダスト”の生成と観察

④過冷却の実験

⑤雪の結晶を顕微鏡で観察



平松式人工雪発生装置と人工雪

活動の内容

いまから175年前、雪を研究対象として取り上げた小冊子が発行された。その名を『雪華図説』といい、わが国初の雪の自然科学書としてこんにちの雪氷学者からも高い評価を受けている。その著者の名は土井利位(どいとしつら)。江戸時代の古河藩主であった。

このまちの小・中学校の児童生徒たちは、古河歴史博物館の展示や社会科の時間などを通して、雪の殿さま土井利位と日本最初の雪の自然科学書『雪華図説』について大なり小なり知識を得ており、また、一部の小・中学校では雪の結晶をモチーフにする校章を使用する



子どもたちに実験についてはなしをする講師の平松和彦氏

など、比較的身近な歴史として親しみをもって接している。

本活動は、そうした郷土の歴史を共有する古河市の子どもたちに、土井利位の行った雪の結晶観察の追体験を行う場を提供したいと考えて企画されたものである。

降雪をほとんど経験できないこのまちにあって、我が国の雪氷学の先駆けである「雪華図説」の著者土井利位の活動を生き生きと追体験してもらうため、雪の結晶を目の前で作り観察させる。

そして、本活動と同時期に歴史博物館で開催される企画展「雪の殿さま 土井利位」を観覧すること、実際に雪の結晶を身近に体験することは、総合的な学習の機会を拡げて、いささかでも広い視野を持つことの大切さを教える材料になるものと確信するものである。

成果と課題

実験の成果は、参加者が、単におもしろい実験を体験したということにとどまらず、その背景にある郷土の歴史をも実感することができるということ。

課題は、実験が単発になってしまいうということ。参加した子どもたちのなかには、この実験を通して得られた成果を発表したり、実験の発展的継続を希望する者もあると推察されるが、この活動では、参加者の成果報告の場が設定されていないため、子どもたちは、実験の成果を発展的に学習に活かすための指導者のアドバイスや教育を受けることができないのである。

今後は、総合的な学習などの機会を通じて、学校教育の現場とより密接な調整を行いながら子どもたちの自主性を育み、より発展的な指導が行えるような環境作りを目指したい。



過冷却の実験を行う子ども

団体の概要

古河市には、豊かな歴史遺産が残されており、それらの資源を活用する歴史博物館が開設されている。また、史跡や歴史遺産を取り込みつつ、古河市特有の地形や自然の力を再生する総合公園も存在している。この団体では、子どもたちがそうした公共の施設をより有用に活用しながら、子どもの学習機会を総合的見地から俯瞰して、そうした場を提供することを目的に活動する団体である。

ワークショップ「21世紀型科学教育の創造4」

実施団体名 21世紀の科学教育を創造する会

連絡先 〒102-0084 東京都千代田区二番町3 麹町スクエア3F 独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター内
TEL:03-3396-4391
E-mail:office06@sci-edu21.org

活動の概要

主に科学系生涯学習施設職員及びその活動に興味を持つ一般の人々を対象に、本音で語るワークショップ形式の交流会を立ち上げ、今後の科学教育のあり方について議論を重ねてきた。ワークショップでは、参加者同士が議論を通して自らの役割を明確化するとともに、指導者として一般市民へ科学を伝えるための技術、ノウハウを学べる場とした。2003年は「交流」をテーマに、生涯学習施設、行政、企業などの様々な立場の人々と意見交換を行い、課題を抽出し、2004年には「科学コミュニケーション」をテーマに、科学を文化として捉えるための方策について考えてきた。2005年は「人々と科学のかかわり」をテーマに、科学コミュニケーションにおける人々のかかわりを中心に21世紀の科学教育のあり方を議論することができた。



開会式



ポスターセッション

活動の内容

今年度は2006年12月10日(日)、11日(月)に国立科学博物館を会場とし、2日間の会期中に125人の参加者を迎えた。年度ごとに全体を統一するテーマを設定し、基調講演をふまえた上で別に定めた

小テーマごとのグループディスカッションを進めているが、2006年度のメインテーマは「21世紀におけるサイエンスリテラシー」とした。グループディスカッションは「幼児教育とサイエンスリテラシー」「博物館・科学館・動物園とサイエンスリテラシー」「学校教育とサイエンスリテラシー」「暮らし(健康・食品)とサイエンスリテラシー」「ジャーナリズムとサイエンスリテラシー」の5テーマとし、多くの時間をグループディスカッションにあてた。また、2002年度よりテーマに沿った実践例の報告のために、ポスターセッションを取り入れた。



グループディスカッション2



グループディスカッション1

成果と課題

参加者の反応はおおむね良好だが、グループディスカッションでの議論が白熱するため毎回時間が足りなくなる点を改善したい。また、ポスターセッションが好評で、今後のワークショップの柱の一つとしたい。ワークショップでの経験をふまえて、各参加者が自身の持ち場でより多くの実践を重ねていただき、指導者としての活躍ぶりを次回のワークショップで報告していただければ幸いである。

団体の概要

21世紀の科学教育のあるべき姿を探るため、有志が集まり2002年秋に結成。外部講師や一般参加者を交えて月1回程度の勉強会をもち、その集大成として毎年ワークショップ形式の交流会を開催している。

2006 みんなで楽しむ科学体験教室

実施団体名 特定非営利活動法人 ハートフレンド

連絡先 〒546-0041 大阪市東住吉区桑津5-11-19 特定非営利活動法人ハートフレンド事務局

TEL:06-6719-6055 FAX:06-6719-6055

E-mail:heart.fd@y9.dion.ne.jp

URL:http://www.netz.co.jp/heart-fd/index

活動の概要

近年子どもたちの理科離れが問題になっており、学校での実験の時間も少なくなっています。もともと、子どもたちは、不思議なこと、ドキドキわくわくが大好きです。それこそが子どもの心に残り、その後の子どもの成長に必要なエネルギーとなっていく。テレビなどでも科学実験は紹介されていますが、目の前で、自らが参加しながら体験する場をぜひ子どもたちに提供したいと思いました。今回は、身近なことをテーマにステージでのショーを楽しみ、その後、幾つかのブースに別れて、自分で体験してみるという企画をたてました。体験することで、科学の好きな子どもが増え、いろんなことに興味を持ってもらえることをねらいとしています。また、親子で参加することで親も子も感動を共有することができます。



ストロー笛の実験ブース

活動の内容

今回は、身近な「空気を感じよう！」をテーマにしました。

会場は、定時定点活動でもお借りしている大阪市立桑津小学校の講堂に決め、広報は、桑津・北田辺の両小学校より募集案内を配布してもらい、その他、手渡しで広報しました。



声で踊るヘビの実験ブース

実施日9月17日(日)午後

1部 ステージショー

3名の講師の先生をお迎えし、「空気を感じよう！」をテーマに空気砲を使って空気の動きを見たり、空気砲を打ってもらって感じたり、煙を入れ空気砲を打ちドーナツ型の輪を観察しました。渦巻きながら飛んでいくきれいなドーナツの輪が出来た時は歓声が上がりました。その後、風船を使っての空気の実験と参加体験。ペットボトルを使ったトルネイドの実験など。

2部 3つのブースに別れ班毎に実験体験(工作もあり)をしました。

1ブース ストロー笛を作ってみよう

2ブース くるくるビー球サブマリン(高速ダブル回転浮沈子)を作ってみよう

3ブース ダンシングスネーク

(声で踊る蛇)声で空気を振動させていることを目で見る実験と自分の声の振動で紙コップの上のモールの蛇を躍らせる工作実験。

当日、参加者は、子ども89名。保護者15名。スタッフ13名でした。

工夫した点は、3つに班分けした参加者がスムーズに3つのブースを



空気砲で空気の渦を見よう

回れるよう会場の配置と人の動きのシュミレーションを繰り返し考えたことです。



風船の中の空気の重さを感じよう

成果と課題

多くの子どもたちが、「たのしかった。むちゃくちゃおもしろかった。」とアンケートで述べているように、興味を持ち、心躍らせたようです。「びっくりした。」「できてうれしかった。」「すごい。」「いろんな科学を知った。」「保護者からも「身近なもので実験して、科学が身近に思えてもっといろんなことを知りたいと思った。」「じっくり科学実験を体験したのは、初めてで、どんどん不思議を発見して子どもたちと共通の話題にしたい。」「生で見て体験すると同じものでもテレビよりすごく伝わってきます。こんな機会をぜひお願いします。」と。参加者は、不思議や、ドキドキわくわく、達成感を得られたし、参加の保護者は、感動の共有ができたようです。また、団体としては、子どもゆめ基金助成事業ということで幅広く募集・紹介広報ができました。ただ、課題としては、もっとたくさんの方に参加してもらいたかったことと、何らかの形で活動の中に科学実験的なものを取り入れていく必要があることです。現在は、文化部活動の中でシャボン玉や、静電気あそび、スライムなどを取り入れています。また企画していつか大きく取り組みたいと思っています。

団体の概要

乳幼児を持つ親子のつどいの広場、子どもの基礎学力向上の復習塾「てらこや」、認知症予防「おとなのてらこや」、あそび、創作活動の「文化部」、「ジュニア・リーダークラブ」など、乳幼児から高齢者までを対象とした事業を展開しています。また、多世代間交流を目的とした「東住吉区金魚すくい大会」や、「子育てボランティア養成講座」などの講座を開催しています。そして、「地域総がかりの子育て」を目指して、「すべての人にやさしい居場所づくり」に取り組んでいます。

子ども科学教育プログラム「レッサーにZOOむイン」

実施団体名 ZOOっとNet西山動物園友の会

連絡先 〒916-002 福井県鯖江市長泉寺町1丁目9-20 鯖江市民活動交流センター内

TEL:0778-53-2234 FAX:0778-51-8153

E-mail:info@zootto.net

URL:http://zootto.net/

活動の概要

「レッサーにZOOむイン」は、西山動物園のレッサーパンダの観察、分析、発表など一連の過程を子どもたちが体験することで『動物などへの理解と興味を育み、科学的なものの見方や考え方を身につけること』を目指した科学教育プログラムです。具体的なプログラムは、レッサーパンダの『行動観察会』と、観察結果をまとめて発表する『ワークショップ』の2部構成です。



観察パネル

活動の内容

企画実施に当たって工夫した点、具体的なプログラム

観察会は、子どもや一般参加者(大人)を対象に、観察、分析、発表の一連の行動を記録する「観察シート」や、「解説パネル」を使い行いました。これらの補助ツールは、スタッフとして観察会のコーディネーターを行うボランティアのリーダーが工夫しました。また、観察会を実施するなかで、ポケットを工夫して色鉛筆や観察シートを上手にしまえる観察バッグや、レッサーパンダの微妙な毛の色に合わせて選んだ色鉛筆と文房具を取り出しやすいセットに組み合わせて、



観察結果の発表風景

小さな子どもでも使いやすいようなキットを開発しました。

観察会は、動物の行動研究において基本的な観察技術とされる3つのステップが、参加者ひとりひとりが理解できるようなかたちで取り組ました。

- 1 個体識別:観察シートを使い、1頭1頭の毛の色や体の形などの特徴を絵(コメントを含む)として記録します。
- 2 行動の判別・記録:観察シートに、そのレッサーパンダが、どのような時にどんな行動をしたのかを記録し、さらにそれはなぜかを推測して記入する。
- 3 行動目録:移動・休む・食べる・さがす・グルーミング・においつけ・排泄などの行動別に、どれくらいの頻度で、時間をかけて行ったかなどを整理する。

観察の後、参加者は大人も子どもも、全員の前で自分の「発見」を発表します。初対面の人たちに発表するのは、特に子どもたちには勇気がいることですが、リーダーが適切にサポートし、それぞれが観察したことをみんなの情報として共有することでまとめの作業を行います。

その結果、同じように見えていたレッサーパンダが、毛の色や、まゆ毛の形など一頭一頭の違いがよく分かり、観察した参加者ひとりひとりにも個性があることが見えてきます。



観察風景

成果と課題

参加した子どもたちの観察力は驚くべきもので、大人が気づかなかったこともしっかり見つけ、そのために一緒に観察した大人も忘れていた自分に会うことができたようです。大人と子どもが協力することで、一人で観察する以上の成果を見いだせるのがこのプログラムの醍醐味です。リピーターも現れ、リーダーの意欲も増しています。

今後の課題は、リピーターと初参加の子どもたち(大人も)がともに「!」や「?」と出会えるよう、マンネリ化を防ぐためのより一層の工夫が必要だと思います。また、リーダーの募集・育成も団体として継続して取り組まなければならないと思っています。

団体の概要

鯖江市西山動物園をサポートしながら動物と人、人と人とのふれあいを育て広げることを目指しています。主な活動は、春のクラフト工房、夏のホタル観察会、秋のイベント「どうぶつたちのごはんをとどけよう」などで、会員や市民が積極的に地域の環境に向き合うためのきっかけづくり、交流の場づくりができるよう取り組んでいます。

夏休み体験教室2006

—不思議な物質の世界を体験しよう—

実施団体名 ANCT子どもゆめクラブ

連絡先 〒836-8585 福岡県大牟田市東萩尾町150 有明高専一般教育科化学教室内

TEL:0944-53-8635 FAX:0944-53-8635

E-mail:yumeka@ge.ariake-nct.ac.jp

活動の概要

小学校、中学校、高校と学年が上がるにつれて、理科を苦手とする、いわゆる理科離れが懸念される中、子どもたちに実験を通じて理科に興味をもってもらうことが大きな目的である。そのために、反応がはっきりとわかるような現象、非日常的な現象をテーマとし、また子どもたちに人気があるスライム作りを通して、化学変化及び物理変化を体験してもらう構成とした。

活動の内容

平成18年7月28日(金)

9時～16時30分

活動開始にあたり、実験内容の概略・原理等を簡単に説明し、以下の順で実験を進めていった。

1. 紫キャベツを使って、身の周りの酸・アルカリを探してみよう！

紫キャベツの色素は、液性によって変色することは、教科書にも紹介されているが、なかなか自分で実験してみようという機会はないと思われる。そこで、食塩を使って紫キャベツから色素を取り出し、3班に分かれ次の内容を交替で行った。

(1) 酸とアルカリで色の变化をみよう、身の周りのものを酸とアルカリに分けてみよう

予めpHを調整しておいた酸・アルカリの水溶液で色の变化を確認し、次にセッケン水やスポーツ飲料等に紫キャベツの色水を加え、どのpHの水溶液に近い色をしているかを観察し、これらのサンプルを酸かアルカリに分類してみた。

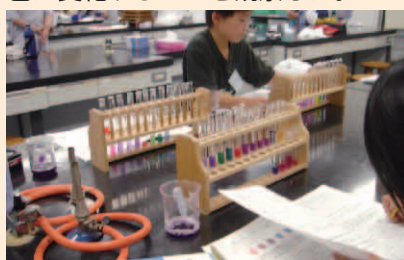
(2) 食塩水の電気分解

紫キャベツの色水が食塩水であ

ることを利用して、電気分解を行った。電極にはコンパスの芯、電源には9Vの乾電池を使い電気分解すると虹色の模様が現れた。

(3) アンモニアの噴水

アンモニアが水に溶解するとアルカリ性になることを利用し、噴水の前で色水が紫色から鮮やかな緑色に変化することを観察した。



紫キャベツの色がこんなになるなんて？

2. -200℃の液体窒素を使って、不思議な現象を体験しよう！

液体窒素を日常生活で見る事はほとんどないが、バナナで釘を打つなどで知られた液体である。その液体窒素でしばらく遊んでもらった後、超電導現象を観察した。

(1) 液体窒素を身近に感じよう

液体窒素を希望者にだけ腕にかけてやると、それを見ていたほとんどの参加者が、僕も私もと席を立った。ものすごく冷たいというイメージが覆された瞬間であった。それから、いろいろな物を凍らせて、ガラスのように砕けてしまうことを体験し、蒟蒻を凍らせて釘を打ったりした。



液体窒素でテニスボールを凍らせたら？

(2) 超電動を体験してみよう

超電導の導入として、電池と豆電球の間に抵抗を取り付け、この抵抗や電池を液体窒素につける前と後での豆電球の光り方を観察し、それから、実際に超電導物質を液体窒素で冷やし、マイスナー効果の観察を行った。磁石が浮き上がった瞬間、子どもたちの歓声が上がった。

3. スライムを作って遊ぼう！

ほう砂と洗濯糊で、不思議な感触のスライムができる。いろんなところで作った経験があるのか、次々とカラフルなスライムができあがっていた。



待ちに待ったスライム作り！

成果と課題

夏休み体験教室では、体験後に家庭でも簡単できる実験と学校でもなかなか体験できない実験をテーマとして取り上げた。アンモニアの噴水や液体窒素の実験では、実験室のあちらこちらから歓声が上がっていた。参加者の多くは、家族や友達に勧められての参加であったが、今度は兄弟や友達と参加したいとアンケートに答えていた。このような実験を通して、理科の楽しさを伝えられたことは幸いである。理科離れという現象は、しばらく続くと思われる。理科が苦手になる前に、多少難しくても、実験を通して、現象論としてその魅力を伝えていくことが今後の課題といえよう。

団体の概要

夏休みを利用して、普段は体験できないものから、自由研究にできるようなことをテーマとし、小・中学生を対象とした公開講座を開催することが主な活動である。その他にも、地元の教育委員会との連携で、小・中学校への出前講座等の要望に応える態勢作りを行っている。

子どもがつくるまち「ミニいちかわ2006」

実施団体名 特定非営利活動法人 市川子ども文化ステーション
連絡先 〒272-0137 千葉県市川市福栄2-9-22-101
TEL:047-395-7670
E-mail:ichikawaoyakogekijo@yahoo.co.jp
URL:http://www.gekijyo.jp/

活動の概要

市内の公園2ヶ所で各2日間、子どもたちが自由に参加できる「ミニいちかわ」という子どものまちをつくる。そこでは18才までの子どもが市民として好きな職業につき、対価としてメティ(地域通貨)をもらい、自由に使う。自分で仕事のやり方を工夫したり、暮らしやすいまちになるようにしくみを変えていったりもする。また、異年齢の子ども同士や多くの大人スタッフと交流していく中で、子どもたちのコミュニケーション力を育む。



スタッフの子どもたちが作ったゲート

活動の内容

10代の子どもの活躍

開催の約半年前から中学生・高校生～20代までの若者が集まり、準備のためのスタッフ会議を始める。子どものまちは、その準備も子どもたちが中心となり、20代の若者と大人がサポートしながら町のしくみから当日の様々な準備等を進めていった。また当日は会場設営からすべてにおいて主体となって運営し、参加した幼児や小学生との異年齢のコミュニケーションを作る要となっていった。店長をやりたいと名乗り出た小学生は、



市役所、ここで登録して市民になります

企画書を提出し自分のやりたい仕事を実現させた。

子どものまちの様子

まちには、市役所をはじめ職安、警察、清掃局などの公共ブースと50店舗ほどのブースが並び、市民となった子どもたちは、職安で好きな仕事を選び、好きなだけ働き、対価として地域通貨を得て自由に使う。このまちの主導権と決定権は子どもにあり、用意された仕事をこなすのではなく、子ども同士で教えあい、工夫し、面白さを追求しながらブースを運営していく。また、公共ブースではまちの自治も考えていく。まちのあちこちでは、子どもたちが生き生きと真剣に楽しく働いたり遊んだりする姿が見られ、子どもが本来持っている力を発揮する場となっている。スタッフとしてかかわる大人は、ありのままの子どもを受け入れ、子どもの力を再認識する場にもなっている。

成果と課題

開始1時間前から長い行列を作るほど、地域の子どもたちから待ち望まれる事業に発展している。受け入れられる人数に限りがあるため、参加したい多くの子どもたちをどう受け入れていくのが課題。子どもたちは、「次回は店長をやりたい」「まちの失業者をどうしていくか」など、課題に対して積極的に意見を出し合う姿が見られる。子ども参画のこのような活動が地域にもっと広がっていくことをめざしていきたい。



次は何の仕事しようかな！

団体の概要

子ども参画の活動をもっと地域に広げていきたいと、様々な自主的、創造的、文化的な体験活動の場を作っている。子どもたちは、学校や年齢のちがう様々な考えを持った子どもや大人と出会い交流していく中で、多くの事を学び育ち合うとともに、豊かな人間性を育む地域社会づくりを目的に活動している。

日光子ども歴史探検隊

実施団体名 日光の子どもに歴史を伝える会
連絡先 〒321-1414 栃木県日光市萩垣面240
TEL:0288-54-0260 FAX:0288-54-0260

活動の概要

日光は豊かな自然や歴史に恵まれているが、それが次世代に円滑に引き継がれているかという、最近疑問である。長い時の流れを越えて今私たちの目の前にある宝(自然や歴史)を伝えていく原動力は、「人と人とのつながり」のみ。大人は自分が祖先から引き継いだ歴史を子どもたちに伝える努力をなくてはならない。また、子どもたちは自分が引き継いだ歴史を広く周囲に伝えていかねばならない。そして、子どもとはいえ、他の人のお役に立てたという自己肯定感も味わってもらいたい。そのような思いで、この探検隊を募った。



まず、地元の人の説明を聞く

活動の内容

平成18年度は2年目の活動となる。日光には東照宮などの世界遺産エリアがあるが、この活動では敢えて観光地は避け、身近な地域-各小学区-を対象にした。1年目は所野小学区、本年は野口小学区が活動場所である。

①9月中旬から、日光地域各小学校に隊員の募集をかける。併せて、中・高校にもサプリーダーの呼びかけをする。また、本団体員以外に協力してくれる大人、日光地域のガイドボランティア、野口地域の



次に、自分たちで調べ学習

地元の人々等に声をかけ、事前に準備会を数回開く。

②10月から11月の週末を利用し、研修会を5回もつ。まず野口小学区の文化財を見学し、指導者から説明を聞く。次に見学で知った事柄を子どもたちなりにまとめ、さらに興味を持った点を自ら調べる。それらが頭の中で整理できたら、今度は、それを他の人に伝えるために発表用の資料を作ったり、発表用のセリフを考える。最後に、現地にて本番さながらの発表の練習を重ねる。

③11月25日、生岡(いきおか)神社子供強飯式(ごうはんしき)の日が本番。この祭礼は、山伏や強力に扮した子どもが大人に山盛りの飯を食べるよう強いる奇祭で、市無形民俗文化財に指定されている。その生岡神社周辺の史跡を歴史探検隊の小学生隊員とその保護者の大人隊員が、歴史(自然も含め)ガイドをした。祭礼に集まった大勢の人々に囲まれ、頬を紅潮させ発表する子ども隊員、大人隊員。その緊張も、一ヶ所、一ヶ所の説明が終了する度に沸き起こる拍手と称賛の声に、大きな喜びへと変化していく。来年もまた一緒に頑張ろうと、事務局員と協力者と歴史隊員は、ガッチリと握手をした。

成果と課題

当初の目標は、郷土の歴史を知ることによって「子どもが変わる」ことであったが、意外な副産物は、「子どもが変わり、大人も変わった」ことである。消えかかった歴史を伝えようと活動しているうち、地元の大人たちに、他の家の子どもも我が家の子か孫のように暖かく育もうという気持ちが芽生えた。また、子ども隊員の活動を通し、以前は地元に興味を持てなかった若い保護者の大人隊員に、郷土愛が芽生えた。この成果を元に、過去からの宝(歴史や自然)を人から人へ伝えていく活動をさらに充実させ長く続けていきたい。

今後の課題は、子ども隊員と中・高校のサプリーダーをいかにして増やしていくかである。どのような広報が良いのか、工夫と努力が必要である。



いよいよ、みんなの前で発表!

団体の概要

子どもに日光の素晴らしい文化財等にふれる機会を与え、その素晴らしさを人に伝えられるまでに成長してもらいたいと設立。また、この活動にかかわる親、地域の大人、スタッフも成長し、みんなで地域の子どもを育む気運を醸成していこうという目標もある。

上記活動の外に、学校への出前講座も行っている。

キッズ・キャリア職場体験活動

実施団体名 特定非営利活動法人 アンガージュマン・よこすか
連絡先 〒238-0017 神奈川県横須賀市上町2-4
TEL:046-801-7881
Email:engagement@com.home.ne.jp
URL:http://engagement.angelicsmile.com/

活動の概要

小・中学生の放課後や土日の活動の一環として、地域と連携しながら将来にわたるキャリア教育を積み上げるために、商店街の中で職業ボランティア体験を進める活動です。物を作る、物売る、サービスの提供、金銭取引、インターネット販売等など、現代社会の商業、流通やサービスの在り方を体験する活動です。体験を通して、子どもたちが将来の職業ビジョンを描いたり、今しなければならぬ学習を考える機会を提供したいのです。

本法人は不登校やひきこもりの若者たちのフリースペース・学習支援を提供し、横須賀市上町商盛會と協働して就労支援活動・キャリア教育活動も行っています。今回、地域の子どもたち及び横須賀市内周辺の子どもたちにも利用枠を広げ、商盛會商店街で職業体験をしてほしいと思います。将来の起業家、経営者を目指して、様々な個性の発見をしてほしいと思います。

- (1) 社会参加の機会拡大と職業理解
- (2) 地域や大人とのふれあい、世代を超えた相互親睦
- (3) 子どもたちの一生を見通したキャリア教育の具体化

さらに本法人としては、上記のような広域かつ多様な子どもたちの参加と交流を通して以下の効果も願っています。

- (1) 不登校や軽度発達障害の児童生徒の人間関係の改善効果
- (2) 商店街の活性化効果



本職人コースのラッピング講座

活動の内容

1. 平日商売体験コース

- 1期6ヶ月12回コースを2期開催
- (1) 合計子ども15人受講(4月～9月: 8人、10月～3月: 7人) 大人15人
- (2) 日時: 月2回(月曜日・水曜日) 午後5時～6時30分
- (3) 場所: はるかぜ書店(上町商盛會商店街振興組合)
- (4) 内容: 店頭販売補助(接客、清掃、品だし)

2. 土曜日職人コース

- 1期6ヶ月6回コースを2期開催
- (1) 合計子ども20人受講(4月～9月: 10人、10月～3月: 10人) 大人20人
- (2) 日時: 月1回(土曜日) 午前10時～12時
- (3) 場所: 上町商盛會商店街振興組合の各店舗及び事務所
- (4) 内容: ケーキ職人、パン職人、肉職人、バイク職人、本職人

3. イベント企画運営コース

- 1期年4回
- (1) 合計子ども32人受講 大人7人
- (2) 日時: 年4回 不定期開催 終日
- 1 灯籠夜市
4月15日(土) 子ども5人、大人2人
- 2 サマーキャンプ



灯ろう夜市の小学生

- 8月2日(水)～4(金) 子ども17人、大人0人
- 3 収穫祭
- 10月23日(月)～25日(水) 子ども6人、大人3人
- 4 梅祭り
- 2月14日(水)～16日(金) 子ども4人、大人2人

成果と課題

学校教育の充実とともに、高度消費社会の形成による社会変化、特に急速な核家族社会と少子高齢化社会の到来の中で、子どもたちへの自然体験や職業体験の充実が問われています。しかし、私たち大人にとって「子どもたちに体験させれば良い」との確信を形成するには、今一度現代の子どもたちが置かれている現実を問い直すことが必要です。特に、現代の子どもたちの息苦しさ、悩みやつらさとは何かを問い直すことは、どういう職業体験が、さらには子どもたちへのどういうキャリア教育が必要であるかを明らかにしてくれると考えます。子どもゆめ基金の助成を得たこの機会に、改めて子どもたちの置かれている現状を問い直し、キッズキャリア教育の成果と課題を見直したいと思います。

団体の概要

本団体は不登校・ひきこもりの若者たちのフリースペースと学習支援、相談・カウンセリングを進めるため設立されました。設立に当たっては、地域商店街にある、上町商盛會商店街振興組合の積極的な理解と支援を受けました。特に地域活性化を協働で進めるため、ひきこもりの若者の就労支援を進める「お届け便・孫の手」事業は全面的な協力を得ています。2年目を迎えて、地域での就労や交流活動は不登校の子どものみならず地域の子ども・若者も参加するようになり、キャンプ活動も始めました。

遊びの創庫「アジト2006」

実施団体名 カルシウムカンパニー

連絡先 〒455-0037 愛知県名古屋市中区名港1-6-3 ヨーロピアンレジデンス507号

TEL:0568-61-1800

URL:<http://www.calciumcompany.com/>

活動の概要

■夏のヒミツキチ

「アジト」と聞くと、きっとだれもが子どものときに遊んだ秘密の基地を思い出すのではないのでしょうか。近所の神社なのにもまるで冒険しているようだった、というようにときどきわくわくして思わず遊びたくなるような環境をつくること、普段の生活の中ではできないような新しい発見をしてもらうことを活動のねらいとしています。

「アジト」は公園を仮設的にちょっと改造してその環境からオリジナル企画を発信していきます。企画・運営はアートや建築・教育を学ぶ大学生、対象年齢は特にありませんが、幼児から小学生高学年ぐらいの子どもが多くきてくれました。期間は8月の1ヶ月間、参加自由で入場も無料です。

■大学生スタッフと子ども

スタッフは子どもの管理者ではなく遊び仲間のようで、常に軌道を変えていく遊びの流れに乗りながら子どもといっしょに楽しんでいます。子どももスタッフもガムテープで名札をつくるので名前を呼び合いながら仲良くなっていきます。



塗って塗って塗って！！



ぼくらのヒミツキチだ！！

活動の内容

■「まち」を全身で味わう

「アジト2006」のテーマは「まち」でした。わらじをつくりそれを履いて歩く感覚を楽しみながら地図をつくったり、別々の公園でそれぞれのヒミツキチをつくったり、ヒントを手がかりに宝を探していきました。あそびながら「まち」を再発見することが目的で、あまり用意しすぎず余白を残した企画にしました。そのほかにも公園を大胆に改造した「水中都市」や、最終日はいままでの企画を利用した運動会「アジトまつり」を行いました。



水中都市を走りまわる！！

成果と課題

■非日常は日常を超えたところにある

テーマを「まち」としたのは「あそび場はどこにでも存在している」という考えからです。子どもたちにとって日常的な環境である「まち」でちょっと違うことをしたかったのです。演出されたテーマパークのような非日常ではなくて、日常を越えたその先にある非日常に少しでも触れてもらえていたらうれしく思います。

■地の利を生かした出会いを

リピーターが多いことが「アジト」の特徴ともいえますが、観光スポットが近い環境なので、地元の子どもたちと遠くから来た家族連れが出会える環境づくりを重視していきたいです。

団体の概要

カルシウムカンパニー結成から毎年「アジト」は行っていますが、それ以外にもオリジナルピンホールカメラで街を散策したり、どんぐり公園の看板をつくったりしています。今後は名古屋市内の児童館や地域のイベントでものづくりやあそびワークショップを展開予定です。

読書ボランティア養成講座

実施団体名 図書館ボランティアネットワークかがわ
連絡先 〒761-8002 香川県高松市生島町148-2
TEL:087-835-0259 FAX:087-835-0259
E-mail:endou@k9.dion.ne.jp

活動の概要

必要な知識とスキルを身につけた読書ボランティアを養成する。県内で活動している読書ボランティアと共に、広い視野(各専門家からの情報を吸収)を持つことで、子どもたちへの読書支援の質を向上させ、充実させる。



第1回読書ボランティアの基本

活動の内容

*読書ボランティア養成講座

第1回 読書ボランティアの基本

講師 増山正子氏

NPO法人まちだ語り手の会代表 町田の図書館活動をすすめる会代表

第2回 絵本・読み聞かせの大切さ

講師 増山正子氏

NPO法人まちだ語り手の会代表 町田の図書館活動をすすめる会代表

第3回 紙芝居を楽しもう

講師 荒木文子氏

にんぎょうげき「コロ」代表 紙芝居作家 パネルシアター作家

第4回 パネルシアターを楽しもう

講師 荒木文子氏

にんぎょうげき「コロ」代表 紙芝居作家 パネルシアター作家

第5回 著作権について学ぼう

講師 植松和久氏

ひさかたチャイルド社 編集長

*工夫した点

第1回読書ボランティアの基本では、活動の目的を軸に読書ボランティアの基本姿勢を学ぶべく、第2回絵本・読み聞かせの大切さでは、現場での本選びのポイント、読み聞かせのスキルについて吸収すべく、子どもの読書環境向上の為40年以上ボランティアを



講座参加者の現場実践(公共図書館)

続けている講師を招いた。

第3回、第4回の紙芝居、パネルシアターの講座は、香川県において研修等の機会がないまま模索しているボランティアにプロの実演を体験してもらい、それを子どもたちの場で活かせるようにと、紙芝居・パネルシアター作家であり、実演歴の長い講師を招いた。

第5回の著作権は、著作権の許諾についての正しい知識を得る為、昨年度児童書四者懇談会から出された「読み聞かせ団体等による著作物の利用について」のガイドライン作成に実際関わった方を講師として招いた。

成果と課題

*団体にとっての成果

70人の募集を上回る人たちが参加してくれた。アンケート集計結果、講座内容がわかりやすかったという意見をたくさんいただき、多くの人が読書ボランティア養成講座を待ち望んでいた実態を知ることができ、また、その希望に沿える講座を開けたことは有意義であった。ボランティア同士の横のネットワークが広がっている。



第4回パネルシアターを楽しもう 講座参加者の幼稚園での実践

また、図書館司書の参加により、図書館側がどのようにボランティアと接すればよいのか学ぶよい機会となった。

*参加者にとっての成果 (アンケート集計結果より)

第1回…読書ボランティアの基本、奥深さがよくわかった。／覚悟と勉強が必要なのがわかった。／目的意識を持つこと、継続の大切さがわかった。

第2回…本を選ぶことの大切さ、ポイントがよくわかった。／大人でも絵本を読んでもらうとこんなに嬉しいということがよくわかった。講師の人柄、活動姿勢に元気をもらい勇気づけられた。

第3回…紙芝居の基本がわかった。紙芝居が大好きになった。／声の出し方指導等、具体的な講座でよかった。

第4回…たくさんの実演を見られてよかった。出し入れの仕方等、学ぶことがたくさんあった。／歌を取り入れると効果的であると実感した。

第5回…実践的で細かい部分の話が聞けてよかった。／実際に本を出版されている側からの話は参考になった。／様式ができて申請しやすくなった。／時とともに変化のある問題なので、今後も続ける必要あり。

*今後の課題

読書ボランティアが各々自分の好き勝手な活動をするのではなく、子どもたちが読書という世界を存分に自分自身で味わう為の橋渡しという目的意識を持って行動するようになるには、今後も養成講座あるいは、ステップアップ講座を継続していく必要がある。アンケート集計結果を見ると、設定してくれれば参加するというテンションの方がまだまだ多いように見受けられる。ボランティアが、あくまで自主的な活動であること、でも自分勝手な活動であってはならないことを、いかに広く浸透させていくかが、今後の課題である。

団体の概要

県下で活動する読書ボランティア団体のネットワークとして、交流会を持ち、日ごろの活動の様子を発表し合い、意見交換したり、活動する中で生じる問題を話し合ったりしている。また、個々の団体が主催する講演会や研修会等の情報を交換し、学習の機会を広げている。

第11回石見文庫おはなし会

実施団体名 石見(いわみ)文庫

連絡先 〒636-0212 奈良県磯城郡三宅町石見653-1 石見公民館 内

TEL:0745-44-0035

活動の概要

大きな図書館も1軒の書店もない小さな町で遠方の図書館や書店に出かけにくい子育て中の親と子、高齢者等に本を通してコミュニケーションの場を提供している。子どもたちはよく読み、よく聞く事で、多くのことばと出会い、自己表現のできる人に成長するための環境づくり、又地域大人との交流の機会を通して子どもたちの健全な育成を目的とする。

活動の内容

平成18年8月27日(日)

プログラム

1. 素ばなし 奈良県のむかし話
「石見のおじぞうさん」
2. 大型絵本の読み聞かせ
「にじいろのしまうま」
3. からくりペープサート
「いっぽんばしわたる」
4. エプロンシアター
「ねずみのよめいり」
5. ブラックライト パネルシアター
「たなばた」
6. 人形劇
「くものきれまに」
7. ペットボトル マリオネット
「南の島のハメハメハ大王」
8. ロールシアター
「におい山脈」

上演作品に使用した本すべてを参加者に紹介。



エプロンシアター ねずみのよめいり



ブラックライトパネルシアター「たなばた」



ペットボトルマリオネット南の島のハメハメハ大王.

成果と課題

おはなし会の終了時の子どもたちの言葉から楽しさを実感し、次回への期待感が伝わる。又上演に際し参考とした本を紹介することによりその日、本を借りて帰る親子の姿が多くみられる。しかし、平素の開館日に貸し出す本がおはなし会の日ほど多くないのが残念である。又ボランティア会員が年々高齢化してゆくため、若い会員の入会が待たれる。

団体の概要

1984年地元公民館内に文庫を設立。

読書のすばらしさをひとりでも多くの子どもたちに実感してほしいと、毎週土曜日図書の貸し出しと、月1回のミニおはなし会、毎年夏休み中におはなし会の開催を続け、本年11回目。現在退職された男性8名を含むボランティア会員24名で運営。小学校、子育て支援機関、高齢者の集いへと、年間10～15回出張公演(他市町村へも)を実施。

おはなしゆーとぴあ

実施団体名 お話しタイム

連絡先 〒012-0804 秋田県湯沢市杉沢字野々沢164-12

TEL:0183-72-3838 FAX:0183-72-3838

活動の概要

周辺(湯沢・雄勝)地域の読み聞かせグループのネットワーク作り、各グループによる発表と講師を招いての講演会を通して、読み聞かせ活動のスキルアップをめざす。各地域の読書活動に関わりのある学校の児童にも発表会へ参加して貰い、地域の親子等に広く参加を呼びかけ、絵本や読み聞かせの楽しさ、奥深さを知ってもらう。

活動の内容

プログラムは、午前の部・各読み聞かせグループと学童による発表、午後の部・講演会とグループ交流会の二部構成で行なう。

◇(午前の部)…自由参加型

①人形劇

「三枚のおふだ」

②絵本

「あらしのよるに」(6年生)

③大型絵本

「ぐるんぱのようちえん」(3年生)

④絵本

「999ひきのきょうだい」(6年生)

「ぴっけやまのおならくらべ」

*手遊び(小休止)

⑤大型絵本

「からすのぱんやさん」

「くじらだ!」

⑥大型紙芝居

「はしのうえのおおかみ」

⑦絵本

「ラヴ・ユー・フォエバー」

大型絵本

「おしゃれなおたまじゃくし」

②、③、④は学童。①、⑤、⑥、⑦は読み聞かせグループの発表。①は

昔話にも力を入れているグループで男性会員による地元の方言での語り。④はプロジェクター(絵本を拡大)も併用した読み聞かせ。⑥は出版社より許諾を貰い手作りの紙芝居。⑦はキーボードでBGMを付けた読み聞かせ。他にも色々と工夫が凝らされていた。

◇(午後の部)…申込み参加型

I、講演会は事前に講師より質問事項のアンケート依頼があり、それを踏まえてのお話し内容とBGMを使った実演。

II、グループの交流会

*午前中より講師持参の絵本を手にとって見られる紹介コーナーを設けた。



大人も子どもも赤ちゃんもみんな真剣なまなざし!



出版社より許諾をとり手作り紙芝居



学校で図書委員の二人、この経験を元に学校でも読み聞かせにチャレンジ

成果と課題

「おはなしゆーとぴあ」開催は、各地域で活動している読み聞かせグループのPRに効果的だったうえ、ネットワークができたことで、情報交換等が線から面へ広がった。新たなグループも加わる事になった。又子どもたちに読み聞かせをやってもらう事で絵本(本)への興味を引き出し、絵本の楽しさ、面白さ、奥深い世界に触れてもらえたことは、会場に来ていた子どもや大人の真剣なまなざしと笑顔から感じる事ができた。この活動への参加により、高学年生が下学年の教室へ行って読み聞かせをする、地域の老人会等で発表する、中学年も積極的に前で読み聞かせをする等々子どもたちが大きな刺激を受け、読書活動に弾みが付いたとの感想を学校より貰い、予想以上の成果になった。子どもたちの活字離れの声を聞け、きっかけがあれば年齢に関係なく本や絵本の世界に素直に飛び込んでくれることを再認識した。

団体の概要

平成15年県読み聞かせサポーター養成講座受講生を中心に発足。目的の一だったネットワーク作りも終了。現在は、「良質な絵本を子どもたちへ」と持ち回りで座長を決め、テーマに沿って絵本を持ち寄り勉強会を隔月で開催。読み聞かせ活動は、学校や保育所等依頼のあった時、又児童館、町内等で会員が毎月それぞれ行なっている。

おはなしらんど

実施団体名 絵本の会 ゆめ

連絡先 〒714-120 岡山県小田郡矢掛町矢掛2677-1 矢掛町立図書館 内

TEL:0866-82-2100 FAX:0866-82-9101

活動の概要

子どもたちが、本と親しみ楽しめるようなきっかけ作りと、親子で本の楽しさについて学べるような活動を実施しています。



定例おはなし会「この動物知ってる?」「そう、きりんさんです」



おはなしらんど「きらきら目がいっぱい」

活動の内容

■定例お話し会

絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなど、毎月、季節感が味わえる内容や行事にも配慮し、親子で有意義な読書の時間が過ごせるように工夫しました。

■出張お話し会

公民館や農協の子ども向けイベントでの読み聞かせなど適宜開催しました。

■おはなしらんどみんなで挑戦

(高学年向け)

本の鑑賞「声に出して本を読もう」
楽しい工作「パタパタ絵本を作ってみよう」

「ドライアイスで遊ぼう」

バッテリーを読もう

等計8回実施しました

■読み聞かせステップアップ講座

一人でも多くの方に絵本に興味や関心を持ってもらおうと、絵



創作昔話に取り組む子どもたち

本の選び方や、読み方などについての研修会を4回実施しました。

- ①絵本の選び方
- ②ブックトークの仕方
- ③プログラムの構成
- ④実践

■子ども昔話創作教室

歴史の町ということもあり、講師の先生のお話を参考にしながら、自作の昔話づくりに取り組みました。

成果と課題

定例お話し会は、毎月14時から実施していましたが、今年から10時30分に変更しました。そうしたところ、母と子の参加から、父と子の参加というように変化してきました。お父さんも絵本に興味を持って来てくれているなとうれしく感じています。

私たちは、子どもたちがキラキラ輝く目で、お話を聞き入ってくれているのを見たとき幸せを感じると同時に感動を覚えます。町の子どもたちそして、家庭へ読書の輪が広がっていくことを願い、これからも日々努力したいと思います。そして、常に絵本が主役であるということを忘れずに活動したいと思います。

団体の概要

図書館を拠点として、絵本の読み聞かせお話し会を実施しています。

町内外から、本好き子ども好きの主婦の集まりです。地域の子どもたちが集まる場所へ出向いて絵本(本)の魅力を伝えています。広報誌や地元新聞にも紹介され、活動が浸透しつつあるなと感じています。

浜島代志子の「ママ、おはなしもっとして!」

実施団体名 わかやま芸術交流協会

連絡先 〒640-8323 和歌山県和歌山市太田196 西中マンションA605

TEL:073-475-1820 FAX:073-475-1820

活動の概要

最近、読み聞かせや学校での読書活動などが静かなブームです。そこで親子を対象に絵本の読み聞かせをベテランの講師に語ってもらいました。親御さんには自身が子どもに読み聞かせをしてあげるのに参考になり、子どもには語りとその場面に応じた効果音をピアノを使用することでより想像力をかき立て、絵本の楽しさを伝えていくことを目標に取り組みました。二部に分け前半は講師による読み聞かせ、後半は親子に向けての講演をしていただきました。

活動の内容

今回場所は150名の小ホールを使用しました。みんなに見えるように絵本はパソコンに読み取り、スクリーンに上映して見てもらいました。事前に打合せをして場面場面に相応しい効果音をピアノで出して行きました。大会として今回の活動は初めての試みでした。募集に当たっては幼稚園・保育園にチラシを置いてもらい、当地のミニコミ誌等に告知を掲載していただくことに力を入れました。

①講師は全国的に読み聞かせの活動を展開しておられる浜島代志子さんをお願いをしました。

②プログラムは

前半 「赤ずきん」(ドイツ昔話)

「ねずみのすもう」(日本昔話)

「はらぺこあおむし」

「マウイ、たいようをつかまえる」

(ニュージーランド・マオリ族神話)

後半 講演「これはすごい!よいこを育てる絵本の力」

前半はおなじみの絵本を使用しました。人数が多かったので大きなスクリーンがとても効果的でした。少しは



ときにはみんなのところに

ざわつくことも視野に入れていたのですが、ほとんどそのようなこともなく、みんな集中して聞いていました。講師も子どもたちに時々発問し、かえってくる言葉をよく拾い上げてくれました。講師の経験に裏付けされた語りと場面場面に応じたピアノでのBGMは会場全体を一気に絵本の世界に引き込みました。ワクワクするようなときはテンポのあるBGM、場面が一気に変わって狼が出てくる時は少しこわーいBGMです。良くみんな知ってるお話なのですが、時折「うわあー!」「こわーい!!」「あははは!」と歓声があがりました。

後半は親子一緒に講演会です。半分くらいは帰ってしまわれるかなと思っていましたが、ほとんどの人が残ってくださいました。講演内容は、絵本を読み聞かせることは子どもにとって心の食事であること、親が読んであげればあげるほど子どもの心はどんどん育つ、そしてより効果的なのは一緒に歌を歌ったり五感をフル稼働させてあげること、読んであげる前にその絵本に込められているメッセー



一緒に歌も歌いました

ジを理解することの大切さをわかりやすく解説していただきました。子どもも一緒なので時々みんなで歌を歌ったりしました。



後半講演



大きなスクリーンを使っの読み聞かせ

成果と課題

運営に関しては初めての試みでしたので改善点も多々あります。それ以上に手応えのあるイベントになりました。参加者は120人位、大人子ども半々でした。感想とアンケートも書いていただいたのですが、とても皆さん楽しんでくださったようで「また同じような事をしてほしい」「絵本にそんな深い世界があるとは思わなかった」保母さんも何人か来られていたようで「とても参考になりました。できれば指導もしてほしい」という声もありました。全体を通してこのような読み聞かせについてはとてもニーズがあるんだということがわかりました。啓蒙には親子一緒にイベントがとても良いように感じます。今後は継続的に小規模でも活動していけるように検討しています。

団体の概要

今までは、地域の子どもの合唱団の活動をサポートする活動を主に取り組んできました。特に年一回程度、外国の合唱団を招き、共演コンサート・ホームステイ、地元の小学校への表敬訪問等を手がけてきました。今回は講師との出会いにより読み聞かせ活動も行ってみようということになりました。

おはなしのへや

実施団体名 おひさまてるてるぼうず

連絡先 〒399-4431 長野県伊那市西春近2127-イ
TEL:0265-78-5863 FAX:0265-78-5863

活動の概要

絵本・紙芝居などの読み聞かせを通して、子どもたちの豊かな心がよりよく育つよう手助けすることを目的に、公民館を拠点としておはなし会を企画、運営しています。

活動の内容

【毎月のおはなしのへや】

毎月第2土曜日午前10時半よりおはなし会を行っています。お話は「ちいさい子(幼児)のへや」と「小学生のへや」に分かれ、年齢にあったものを楽しんだあと、ひとつの部屋に集まり皆で工作をします。

平成18年11月11日(土)のプログラム

【ちいさい子のへや】

1. 絵本「ぼくはやぎさん」
2. 紙芝居「ジャックとまめのき」
3. 絵本「バルボンさんのおしごと」
4. 絵本「でてこい でてこい」
5. 絵本「おおきなたまご」

【小学生のへや】

1. 絵本「セルコ」
2. 語り「カメの遠足」
3. 絵本「はいけい たべちゃうぞ」

【全体で】

工作 ひものぼりを作りました。



七夕飾りを作っています

絵本は、昔話、最近のお話、日本のもの、外国のもの、物語、言葉遊びを楽しむお話などを偏らないようにし、その中から季節にあったものや子どもたちに伝えたいものを選んでいきます。また、おはなしの合間に手遊び、わらべうたなども取り入れています。

会場の入り口に季節の本やスタッフおすすめの本を並べ、子どもやお父さんお母さんに手に取って見ていただくようにしています。公民館に図書館が併設されているので、おはなし会の前後に本を借りていく姿も見られます。



七夕飾りができました



絵本を読んでいます



大人も子どもも夢中です

【クリスマス会】

12月は「おはなしのへや クリスマス会」です。お話はいつもより多い3つの部屋を使い「年少さん以下の子のへや」「年中さんと年長さんのへや」「小学生のへや」に別れます。それぞれで絵本や紙芝居を見た後、大きな部屋に集まって、ブラックパネルシアターやスタッフ手づくりの劇を楽しんだり、歌を歌ったりしてクリスマス会のひと時を過ごします。



畳の部屋で絵本を読んでいます

成果と課題

定期的に行っていることにより、毎回来てくれる子が何人もいます。そういった子どもたちの参加が、楽しい中に落ち着いたおはなし会の雰囲気を作り出してくれ、初めてきた子どもでも自然と本の世界に入ってくれることをとても嬉しく思います。

スタッフは10年以上この活動に携わっている人が多く、自身の子どもたちもだんだん大きくなっています。本、子どもたちの姿、会のあり方等に対し、常に最新の情報に気を配りつつ、普遍的なことの見極めとのバランスを考え、よりよいおはなし会にしていきたいと願っています。

団体の概要

春近郷ふれ愛館で毎月1回のおはなし会を行っています。運営スタッフは、図書館司書、学校司書、保健師、保育士など仕事も子どもや本にかかわっている人、また普段は会社員で演劇の経験を活かして活動する人など様々です。スタッフと地域の親子が本を通し相互にかかわることにより、様々な人間関係を体験し、大人と子どもがそれぞれに成長していくことを目的に活動しています。

音楽と七夕おはなし会

実施団体名 読み聞かせ“木の実”
連絡先 〒889-4901 宮崎県えびの市75-1
TEL:0984-33-0378 FAX:0984-33-0378

活動の概要

星空の美しい七夕の時期に、親子で音楽やおはなしを楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごしてもらい、日常の慌しさを忘れ、おはなしの世界への扉を開いていただき、想像力を働かせることにより感性を豊かにし、情緒教育につなげます。

また、県内外で活躍されている講師を招き、より充実した内容に触れ、音楽やおはなしに親しんでもらいます。

活動の内容

- 1.活動日
平成18年7月22日(土)午後7時～
- 2.活動名
音楽と七夕おはなし会
- 3.活動プログラム
《1部》
フルート演奏
・君をのせて
・上を向いて歩こう
・となりのトトロ
ピアノ・歌
・日本むかしばなし
おはなし
①お月さまのはなし
②生きものの寿命
③医者どんのあたま



フルート演奏「君をのせて」



お話し 医者どんのあたまの前に手あそび「かえるの合唱」

休憩

- 《2部》
おはなし
④かにかにこそそ
⑤あくびがでるほどおもしろい話
⑥小鳥になった美しい妹
ピアノ・歌
・お父さまにおねがい
・踊り明かそう
フルート・ピアノ演奏
・夏の思い出
・七夕さま合唱(全員)
フルート演奏・ピアノ・歌は講師を招き、私達(読み聞かせ“木の実”)だけではできない、音楽の世界に親しんでもらいました。
おはなしの③④⑥は、小林市で長年読み聞かせのボランティア活動をされている【こうさぎ文庫】の方を講師に招き、日本の昔ばなしや外国のおはなしを語って頂きました。なお、おはなしの①②⑤は“木の実”の会員が語りました。



お話し あくびがでるほどおもしろい話 語り手「木の実」

休憩時間には、参加者に短冊に願いを書いてもらい、笹に飾りました。

プログラムの最後には、参加者、スタッフ全員で七夕さまを合唱して幕を閉じました。



七夕さまを合唱する参加者のみなさん

成果と課題

何と言っても、天候に悩まされました。

当初の計画では、美しい星空の下で、夜風に当たりながら行う予定でしたが、九州地方を襲った記録的な集中豪雨に見舞われ、残念ながら屋内でのおはなし会となりました。

所によっては、避難勧告もだされ、メンバーの一人も地域の体育館に避難しました。そんな中での開催に悩みましたが、公共の交通機関が動いていたこと、講師の日程や、会場の隣が、避難場所になっていたので自宅を離れて不安な夜を過ごす子どもたちへの励ましを込めて《こんな時だからこそ、やろう!!》と、開催に踏み切りました。

こんな状況の中でも、協力してくださった講師の方や、参加してくださいました皆さんに心から感謝申し上げます。私達“木の実”にとって、最初の子どもゆめ基金活動は忘れられないものになりました。

団体の概要

平成15年6月発足、現在会員は11名
毎週水曜日、飯野小学校、和光幼稚園、月に2回上江小学校の他に毎月1回、加久藤乳児保育園・えびの市民図書館・市が運営する乳幼児六ヶ月健診時の読み聞かせなどを中心に活動しています。
また、パネルシアター・ペープサート・おはなし・おすすめ絵本の情報交換など毎月第3水曜日の定例会にて学習しています。

千歳おやこ劇場 お話会「びっくりばこ」

実施団体名 千歳おやこ劇場

連絡先 〒066-0043 北海道千歳市朝日町1丁目11
TEL:0123-27-6822 FAX:0123-27-6822

活動の概要

千歳市向陽台地区は、市街から離れた(千歳駅まで約8キロ)ところにある工業団地に隣接し開発された団地です。

児童館、図書館などもなく(児童館は2年前に設置)幼児を持つお母さんたちは、「下へ行く」(こう言っています)しかありませんでした。この地区で活動する「千歳おやこ劇場」の会員で、おやこ劇場の活動を知らせながらこの地域で絵本の読み聞かせをしていきたいと、8年前に立ち上げた、お話会「びっくりばこ」です。

活動の内容

毎月第4木曜日3時20分から4時までの40分間、絵本・紙芝居・手遊び・折り紙などの工作・歌と、子どもたちを飽きさせず引き込むために順番を工夫して取り組んできました。

幼児から小学校3年生ぐらいまでを対象にしています。2校ある小学校の1年から3年までと幼稚園、児童館にチラシを毎回作成し配布をお願いしています。始めたころは8百枚以上作成しましたが、現在は5百枚を少し出る520枚くらいです。

絵本を3冊から4冊、手遊び・歌、季節にあった折り紙・工作を入れて6題ぐらいの内容で毎月プログラムを作ります。絵本は次々と新しく面白いものが豊富にあるので自分が読みたいものや、わくわくする絵本を持って打合せに臨みます。

その中で幼児でも飽きずに見ていられる場面の少ないそして面白い「紙芝居」がなくなってきました。

図書館で借りてくるのですが新しい「紙芝居」が増えませんので、昔話の中でも面白くわかりやすい「紙芝居」を購入し、6組を大事に使っていきたいと思います。

毎回の打合せの中では、季節感・年中行事・大きい子向けと小さい子向けを入れるように工夫しています。

節分、お雛様、七夕祭り、お月見、またクリスマスの時は、持ち帰れる工作にあめなどを1つつけています。

節分の鬼のお面作りで顔のいろいろな部位を作っておいて当日好きな部位を組み合わせでお面を作りました。こどもたちは、角をたくさんつけたお面を、得意になって見せ合っていました。

子どもたちの数が減っている中での活動ですが、お友達に聞いたという方が、時々来てくださるなど、励まされる事もあります。

絵本をめくりながら子どもたちの反応にドキドキする体験は、本当に楽しくうれしいものです。続ける中で自分の子どもたちの成長も確認でき、子育ての喜びも味わっています。

成果と課題

成果としては、月1回ながら8年間も続けてこられたことです。最初からのメンバーが3人残っていて、自分たちの子どもが巣立っていても、地域の子どもたちとつながっていく活動を楽しんでいます。自分の子どもが離れず、抱きながら絵本を読んでいたのに、今では下の子をお兄ちゃんが抱き一緒にお話を聞くまでになりました。傍から見てい



お話会の様子

ると、子どもの成長のほうが多いと思えます。メンバーが親として静かにしっかり成長していくのを見ていて、この活動を続けてきてよかったと思います。小学生の中に読み聞かせを体験している子どもが増えているのか、最初から突っ込みを入れたり邪魔をしたりする子どもが少なくなったように思います。

課題は、子どもが少なくなってきているという社会現象がここでも深刻だということです。なかなか新しい顔が見えない中、お友達を誘うということをメンバーがしていますが増えません。メンバーの家族だけということが冬場はありました。暖かくなって日も伸びると少しずつ増えていきます。このごろは、20名から30名を越える人数で開いています。

メンバーの技術向上のための練習時間が取れないことがもうひとつの課題です。親子劇場のメンバーでもあるのでいそがしい中、打ち合わせ、本番以外にはなかなか集まりません。終わったあとの講評もまだ深められているとはいえません。発声や間の取り方などを練習していきたいと思っています。

団体の概要

月1回千歳市向陽台コミュニティーセンターで、小学生低学年と幼児とお母さんを対象にした絵本の読み聞かせ活動をしています。1999年からはじめました。

読み聞かせ会

実施団体名 読み聞かせサークル「えほんのかんづめ」
連絡先 〒901-3805 沖縄県島尻郡南大東村字在所183-4 南大東村立保育所内
TEL:09802-2-2268 FAX:09802-2-2268

活動の概要

本屋さんのない島で、親子で楽しい絵本との出会いの場として、絵本を楽しむきっかけを作り、家庭での読み聞かせを奨励して、心豊かな子どもたちの育成を担うことを目標に活動しています。

活動の内容

月1回、土曜日に村の児童館、保育所、学校図書館、公民館など、場所を移動して、読み聞かせ会を行っています。

季節や行事、昔話、民話など、子どもたちや保護者そして地域の方々にも関心がもてるようなプログラム作りを心がけています。

年に2回、講師を招いての読み聞かせ講話会を開催、小物作りや民話について、また子育てと絵本について等、お話しと実演を行っています。

月に1回土曜日に、読み聞かせボランティアとして、小学校で読み聞かせをおこなっています。



毎月の読み聞かせ会、村のビジターセンターにて



学校での読み聞かせボランティア

成果と課題

毎月の読み聞かせ会では、地域に定着し、参加してくれる子どもたちの態度が落ちつき、静かに聞いているようになっていきます。

ボランティアとして、保護者や地域の方々が増えて、読み手としての意識が向上し楽しんでいます。

これからの課題として、ボランティアの学習の場を増やし、地域に根ざした読み聞かせ活動を行っていきたいと考えています。



毎月の読み聞かせ会、村のビジターセンターにて



学校図書館での読み聞かせ会

団体の概要

平成7年に、南大東幼稚園親子読書会として発足、地域に拓かれたサークル活動として、読み聞かせサークル「えほんのかんづめ」として、地域での読書活動の推進に力を注いでいます。

集団遊びでからだづくり・友だちづくりー伝承遊びを通じてー

実施団体名 特定非営利活動法人 岐阜県レクリエーション協会
連絡先 〒502-0045 岐阜県岐阜市長良校前町5-14-1 岐阜県軽スポーツ研修センター内
 TEL:058-295-7257 FAX:058-295-5002
 E-mail:npo-gifu-rec@kuf.biglobe.ne.jp
 URL:http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-gifu-rec/

教材の概要

近年子どもたちの運動量が激減し、体力低下が著しくなっています。

そこで、幼児期・児童期における『運動ができる遊び』を多く取り入れ、遊びという面から運動を増やし、体力の向上を目指すために作成をしました。

教材の活用法

教材の内容は、幼児・小学生(低学年)・小学生(高学年)・ニュースポーツと種類を分け、遊びひとつひとつのルールを部分毎に分けてあり、イラストと動画で分かりやすく作成いたしました。

子ども会や学校などでの教材としての活用の他に、種目によっては応用編もありますので、家庭などで幅広く活用していただけます。



“パッケージ”より

構成として、下記の種目が収録されています。

◎幼児からの集団遊び

- ・おしくらまんじゅう
- ・オニごっこ
- ・かごめかごめ
- ・ケンパ
- ・グリコ
- ・だるまさんがころんだ
- ・花いちもんめ

◎小学校低学年からの集団遊び

- ・オチャラカジャンケン
- ・ドロケイ
- ・かげふみオニ
- ・ポコペン
- ・助けオニ
- ・手合わせ相撲
- ・陣取り

◎小学校高学年からの集団遊び

- ・馬乗り
- ・手つなぎオニ
- ・缶けり
- ・おんぶジャンケン
- ・ゴムとび
- ・肉弾(にくだん)
- ・キックベースボール
- ・ドッチボール
- ・S陣(えすじん)
- ・水雷艦長(すらいかんちょう)
- ・長なわとび

◎ニュースポーツ

- ・ペタンク
- ・ディスクゴルフ
- ・ドリブルリレー
- ・ドッチビー
- ・ティーボール

なお、インターネット上でもご覧になれますので、詳しくは
<http://www.genki-morimori.jp/karatomo/>
 をご覧ください。



“メニュー画面”より

教材の普及状況

子ども会、PTA、地域総合型スポーツクラブなど、地域で子どもたちを対象に活動されている団体より、教材として活用したいと多くの問い合わせをいただきました。活用いただいた皆様より、伝統的な遊びを通して、体を動かすことにより、運動機能を高める効果が得られたと高い評価をいただいています。

さらには、関わる大人と子どもたちが交流しながら体を動かせるという意見を多くいただきました。

当初の目的であった「子どもの体力向上」のみでなく、世代間の交流など多くの効果が見られ、引き続き普及振興を行っています。

団体の概要

特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会は、県民の余暇生活を開発、充実させるため、レクリエーションの総合的な普及振興を図っております。

その他にも、レクリエーションに関する活動を行う他の団体に対する支援を行い、もって県民の心身の健全な発達と明るく豊かな県民生活の形成に資することを目的としております。

院内課外活動サポートプログラム

実施団体名 財団法人 民間放送教育協会

連絡先 〒106-8001 東京都港区六本木6-9-1 テレビ朝日内

TEL:03-6406-2171 FAX:03-3405-3794

教材の概要

●教材の目的

病院に入院している子どもたちには院内学級制度が整備されてきていますが、課外活動や体験学習分野についてはまだ十分な環境は用意されていないのが現状です。治癒を主目的とする入院生活では限界はあるものの、学校や家庭、或いは社会の教育環境から隔絶されてしまった病院内の子どもたちに、才能を育み、また治療や不安に立ち向かえる心を支えるための楽しさと充足感がある教科外の学習機会を提供していくことは、どうしても実現していかなければならない大事な課題と考えています。とはいえ、病院の子どもたちに有効な手法やコンテンツの内容に関して、検討していかなければならない部分が多く残されています。本教材は、病院内に於ける生涯学習の院内課外活動のコンテンツ開発研究を行い、更にそれらのコンテンツを病院内で実践的に試し、今後の展開に資することを目的としています。

●教材の内容

- ・院内課外活動サポートプログラム
- ・院内課外活動用コンテンツ
 - a.「かみしばいの世界」(5作品)
 - b.「本の読み聞かせ教室」(6作品)
 - c.「マジック教室」(19種類)
 - d.「科学実験教室」(3種類)
 - e.「万華鏡教室」(3種類)
- ・院内課外活動サポートプログラムを使った学習[動画で紹介(10分51秒)]



トップページ

●教材の利用対象

主に病院に入院している子どもたち



かみしばい



本の読み聞かせ

教材の活用法

●主目的(院内課外活動として)

- ・家庭(保護者)からの学習環境隔絶への補完
- ・地域社会からの教育環境隔絶への補完
- ・病院内生活での楽しさと充足感のある時間の提供
- ・治癒を主目的とする入院生活に於いて、教科外の学習機会の提供
- ・地域のボランティアや入院中の患者、医師や看護師等と共に教材を活用し、治療や不安に立ち向かえる心を支えるための楽しさと充足感を提供

●その他の教材活用法(院外課外活動として)

- ・家庭で療養している子どもたちに提供
- ・または、家庭内での親子のコミュニケーションツールとしても有効に機能
- ・大学のサークルや各種団体を通じて、子どもたちとの交流の場で活用
- ・地域の児童センターや生涯学習センターなどで、子どもたちに健全なレ

クリエーションツールとして提供

- ・社会福祉施設等でのボランティアによる活動用教材として提供

教材の普及状況

●教材へのアクセス方法や媒体の入手方法

- ・インターネットを通じてのアクセス方法:財団法人 民間放送教育協会のホームページにて公開中

- ・教材DVDの入手方法:財団法人民間放送教育協会にFAXでの申し込み

●当該教材を利用した活動事例

- ・本コンテンツ制作に際し、企画監修委員会及びワーキンググループを設置
病院、大学、メディア等関係者で構成され、関連する学会や研究会で発表。
- ・ドナルド・マクドナルド・ハウス世田谷(国立成育医療センター隣)にて本コンテンツを利用したモニター調査を実施。

●利用者の声

コンテンツの数(種類)を充実してほしい。／実際にやってみて楽しい。／入院中はあまり動けないので、ベッドでできるコンテンツはうれしい。／ともすれば気落ちしそうな病院生活で、親子で楽しめる貴重な時間を共有できることはありがたい。

●更新計画等今後の課題

今後の課題は、平成18年度に制作したモデルコンテンツ及びその実践と評価調査を活かし、多様なコンテンツを必要とする院内課外活動コンテンツライブラリーの構築に向けて、①必要とするコンテンツカテゴリーの拡大の為のモデルコンテンツ事例の作成、②コンテンツの量を確保する為のコンテンツ制作及びコンテンツ提供に協力してくれる支援機関の確保と要請、個人映像制作者等の協力体制づくりを目指します。

団体の概要

昭和42年6月に文部省から設立の許可を受け、放送などを通じて教育への奉仕を志す系列を超えた全国34の民間放送局で組織され、「いきいき!夢キラリ」などの社会教育・教養番組を企画・制作し、全国放送や視聴者・社会教育関係者及び放送関係者の三者による研究協議会をはじめ、各種の教育活動を全国で展開しています。

日中韓子ども童話交流事業

事業の概要

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、お互いの文化を理解する機会を提供することにより、子どもの読書活動や体験活動の重要性について普及・啓発を図るため、「日中韓子ども童話交流事業実行委員会」を組織し、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」（会長：河村建夫元文部科学大臣）の参画を得て「日中韓子ども童話交流2006」を実施しました。

今回は、「海」をテーマに日本・中国・韓国の3カ国が海を仲立ちに向かい合う山口と東京を舞台に小学校4年生から6年生の子ども99名（日本49名、中国25名、韓国25名）が集い、一週間の日程で開催しました。

事業の内容

東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに参加者が集合、3カ国混成の10グループに分かれ、そろいのTシャツを着て結団式、河村建夫実行委員会事務総長（元文部科学大臣）からご挨拶を頂きました。

結団式の後には、東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館で館内を見学。3階建ての館内には、世界中から児童書や関連資料が集められ、子どもたちは面白そうな絵本を手にとっていました。

山口では下関市で「海のいのち、海といのち」をテーマにした水族館を見学しました。



実行委員会事務総長・元文部科学大臣の河村建夫衆議院議員を迎えて結団式

翌日には、金子みすゞ記念館の学芸員から金子みすゞが作った代表的な詩の背景について解説してもらいました。その後、「秋吉台」や「秋芳洞」を“探検”。夜は太鼓と歌のコンサートに聴き入りました。

そしてその翌日から、グループごとに手作り絵本づくりに取り組み、サル(日本)、パンダ(中国)、トラ(韓国)の3匹の各国を象徴する動物に気持ちを託して10編の絵本が出来上がりました。

グループ全員で協力して完成させた10編の絵本を舞台上で発表、各班のファンタジーあふれる作品に感動の輪が広がりました。



みんなで協力して絵本作り



絵本の発表会

解散式では3カ国の子どもの代表が「海より深い友情で結ばれました。素晴らしい人間になって再会しよう。」(抄)と宣言文を発表した後、別れを惜しみながら、再会を誓い各自帰途につきました。

世界に一つだけの絵本

3カ国の子どもたちが、日本5名、中国、韓国2～3名の10班に分かれてサル(日本)・パンダ(中国)・トラ(韓国)という、それぞれの国の代表となる主人公に自分たちの気持ちを託し、班ごとでオリジナルのストーリーを協同して考え、1人ひとりが1場面ずつ担当し、世界に一つだけのオリジナル絵本を完成させました。

友情を深め合った1冊の本は、とても大切な思い出として心に刻み込まれたことでしょう。



日本



中国



韓国

「子どもゆめ基金」への寄附団体

平成18年度に

「子どもゆめ基金」へご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(あいうえお順・敬称略)

アーバンベンディックスネットワーク株式会社	株式会社アサヒ情報
あまんだまん(有) 代表取締役 山城定和	株式会社石野電気
株式会社伊藤園	栄光電気株式会社
岡田 銀三郎	おはなし がらがらどん
おはなしコロボックル	郷土愛媛と国際社会を考える会
NPO法人クラブ・レックス	児玉医院
特定非営利活動法人子ども文化ステーション	佐伯 喜美子
株式会社サンテックス	喫茶 自然堂
社会経済生産性本部	株式会社ジャパンビバレッジ
有限会社鈴木商会	株式会社全日警
株式会社泰平総合建設	高橋野線印刷株式会社
タフカ株式会社	財団法人丹後あじわいの郷
東京コカ・コーラボトリング株式会社	朱鷺メッセ(新潟万代島総合企画株式会社)
社団法人日本経済青年協議会	日本シティビルサービス株式会社
日本テクノストラクチャア株式会社	株式会社日本旅行 東京西支店
乗倉 寿明	株式会社八洋
阪和興業株式会社	ヒーロースクール
北海道立総合体育センター指定管理者(財) 北海道体育協会	株式会社ホマレ電池
松下 文治	株式会社マルタ
八幡野地区青少年育成会	株式会社ヤマノコーポレーション
有限会社ユウキ産業	株式会社ライフ
渡辺工業株式会社	

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

郵便振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な郵便振替払込書の中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱東京UFJ銀行	渋谷支店
口座番号	普通預金3025103	
口座名義	子どもゆめ基金	

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金ガイド2007

2007年9月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 管理・普及課03-6407-7685 助成課:0120-579081

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

「子どもゆめ基金」は独立行政法人国立青少年教育振興機構の登録商標です。



独立行政法人
国立青少年教育振興機構